

## 設置計画の概要

事項	記入欄
設置手続きの種類	事前伺い
計画の区分	学部の学科の設置
フリガナ設置者	コクリツダイガクホウジン ミヤザキダイガク 国立大学法人 宮崎大学
フリガナ大学の名称	ミヤザキダイガク 宮崎大学 (University of Miyazaki)
新設学部等において養成する人材像	<p>[農学部全体]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 社会の要請に応えるための高い専門性と技術を有し、国内外の農業・食料・環境及び福祉等の問題解決に貢献する人材の養成を目指す。</li> <li>② 世界の食料・環境問題の克服を目指し、広い視野で物事を考える総合的判断力や問題解決能力を涵養しつつ、より専門性の高い技術を身につけさせる。</li> <li>③ それぞれの学科で培われた専門的知識と技術を生かせる就職先を確保する。</li> </ol> <p>[農学部植物生産環境科学科]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 環境と調和した持続的な植物生産、流通システムの開発、最適な機械技術・安全技術の開発、生産基盤及び物質循環型の農村空間の創出ができ、国際的に貢献できる人材を育成する。</li> <li>② 植物の安定的・持続的生産を行い、安心・安全な農業生産物の供給を行うための農学全般に関わる基礎及び作物、園芸、植物病理、応用昆虫、農業環境工学、農業システム、農業経営・経済に関する専門知識を修得させる。</li> <li>③ 公務員、教員、試験研究所、農業団体、植物園、種苗業、農業法人、食品製造加工業、農業医薬産業、緑化産業、肥料会社、食品流通業、農業土木関連産業、農業機械関連産業、農産施設関連産業、国際協力機構(JICA)、金融業、マスコミ、自営(就農)、大学院進学</li> </ol> <p>[農学部森林緑地環境科学科]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 自然環境や国土の保全、水源涵養など安全で快適な生活環境と生物資源利用の調和を目指した森林緑地管理を計画・実行でき、環境に調和した材料の創製や緑化に活躍できる技術者を養成する。</li> <li>② 森林・農山村・都市域の自然環境・生活環境の保全やその基盤となる国土管理についての専門基礎科目と、森林資源育成・利用、緑化、防災、材料利用等の専門科目を体系的に編成し、フィールド重視の専門技術者養成教育を行う。</li> <li>③ 国家公務員(林業、砂防、造園、農業工学、農業土木)、地方公務員(林業、環境、造園、総合土木)、森林・材木関連企業(森林管理、木質建材、菌類生産)、住宅産業、森林関連団体(森林組合等)、造園・緑化・土木・環境関連企業(施工、材料開発、コンサルタント等)、教員、大学院進学</li> </ol> <p>[農学部応用生物科学科]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 生命・食料・環境に関連する諸問題の解決を目指し、先端的・独創的な科学技術の発展に寄与できる創造性と問題解決能力を持ち、国際化・情報化時代に対応し、高い倫理観を持つ人材を育成する。</li> <li>② 社会が直面する生命・食料・環境に関連した諸問題を解決する能力を備えた技術者を育成するために、生物機能及び食品機能の科学的な理解とその活用、バイオテクノロジー、農業生産環境の保全と食品の安全確保および技術者倫理に関する教育を行う。</li> <li>③ 食品製造業、発酵・醸造業、食品流通業、医薬品製造業、医療器機製造業、食品受託分析業、化学工業、環境化学関連企業、公務員、教員、農業関係団体、大学院進学</li> </ol> <p>[農学部海洋生物環境学科]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 地球環境系の中でも最も大きな規模と役割を備えている水圏における生物生産と環境に関する知識を修得し地球環境や食料生産の諸問題を柔軟に分析し、対応できる人材を育成する。</li> <li>② 海洋を始めとした水域における生物資源の生産・利用・管理及び環境の保全を理解するため、水域生物の生理・遺伝・分類、資源利用科学、水族の疾病、水域環境の保全に関する教育を行い、フィールド体験や実験実習を重視した教育を行う。</li> <li>③ 水産物・食品・飼料製造流通関連企業、漁連・漁協等団体、船舶・保険会社・医薬品関連企業、水族館・博物館・海洋観光産業、公務員、教員、環境アセス・コンサルタント、試験・研究所、大学院進学</li> </ol> <p>[農学部畜産草地科学科]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 食料・飼料自給率の向上や自然・社会環境との調和を実現し、国内外の「食料・農業・農村」をめぐる諸課題の解決に貢献できる人材を育成する。</li> <li>② 肉用家畜と暖地型飼料植物を中心に、家畜・家禽の合理的生産と福祉、飼料資源の開発と利活用、草地・放牧の適正管理などに関する知識を、フィールド実体験を交えつつ効果的に修得させる。</li> <li>③ 公務員、農業関係団体、試験・研究所、飼料・種苗会社、畜産食品加工・流通、畜産業、緑地・緑化産業、環境アセス・コンサルタント、教員、動物園、大学院進学</li> </ol> <p>[農学部獣医学科]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 動物の保健・福祉の向上、公衆衛生、医薬品開発、動物愛護、環境保全など、広範な分野で高度な専門性を発揮でき高い実践能力、十分な倫理観を備え、自らの手で新分野を開拓する能力を持った獣医師を養成する。</li> <li>② 動物の体の仕組み、動物の病気の状態とその原因との関係、診断・診断・予防法の原理とその実践、人と動物との関係及び共通の病気などについて、臨床現場・フィールドを利用した実践的教育を行う。</li> <li>③ 地方公務員(公衆衛生・家畜衛生)、大動物・小動物病院、企業(医薬品開発、食肉・食品関係、農場管理)、家畜共済(家畜臨床)、国家公務員(家畜衛生研究・行政、動物医薬品管理、動物検疫、公衆衛生研究・行政)、動物園・水族館、国際協力機構(JICA)、大学院進学</li> </ol>

既設学部等において  
養成する人材像

[農学部全体]

- ① 食料・環境・生命・資源に関わる学問に親しむとともに、自然に対する畏敬の念を持つ感性豊かな人材を養成する。また、国際社会で活躍する多様な人材を養成する。
- ② 世界の食料・環境問題の克服を目指した教育・研究を進め、農学の基礎と専門の知識・技術を幅広く修得させる。
- ③ 各学科の専門性を生かせる就職先を確保する。

[農学部食料生産科学科]

- ① 多様な植物や動物を利用して、環境と調和させた持続的生産活動を展開できる人材、感性豊かで柔軟な思考力と想像力を備え、将来を展望できる人材を育成する。
- ② 安全で高品質な生産物をいかに効率的に、環境負荷を少なく、安定的に生産するかという課題を中心に教育を行う。
- ③ 公務員、教員、農業団体職員、農畜産業、種苗会社、食品の生産加工・流通産業、医薬・農業・関連産業、機能食品関連産業、環境監視業務、動物園、国際協力機構（JICA）、大学院進学、自営

[農学部生物環境科学科]

- ① 環境保全と資源利用の調和を図ることができ、柔軟で総合的視点を備えた人材、さらに、時代とともに変わる環境問題を正確に把握し、正しく対処できる人材を育成する。
- ② 「生物生産と生態系保全との調和をいかに図っていくか」という地球的な課題を中心に教育研究を行う。環境問題解決のために必要な総合的で幅広い基礎および専門の知識を修得する。
- ③ 農水省、県市町村公務員、農林水産業団体、教員、環境・緑化・建設・造園コンサルタント、水産・畜産・林業関連産業、食品流通・医薬産業、教育出版、大学院進学

[農学部地域農業システム学科]

- ① 地域開発の「ルーラルプランナー」「ルーラルエンジニア」「アグロエンジニア」として農林業・農山村社会の発展に積極的に寄与できる人材、また、柔軟な問題解決能力を持つ創造性豊かな人材を育成する。
- ② 食糧資源の生産・管理システムや地域環境の修復・保全・維持、ならびに自然循環機能を重視した環境保全型（持続型）農業技術や農業生産システム技術を習得し、農業・農山村・地域社会の発展に積極的に寄与できる人材養成を目指した教育・研究を行う。
- ③ 農水省、県市町村公務員、農業高校教員、各種農業団体、農業土木関連企業、農業機械関連企業、情報産業、サービス業、林業関連企業、食品関連企業、大学院進学

[農学部応用生物科学科]

- ① 応用生物科学分野における科学技術の発展に寄与できる総合的な知識と実践力を備えた技術者および研究者の養成を目指し、また、国際化・情報化時代に対応できる人材の育成を目指す。
- ② 「生命・食料・環境問題を解決するために課題探求型の教育研究システムを用意している。1、2年次では生物学や化学などの専門基礎科目を学習し、その後、生命・食料・環境を網羅する各専門講義および実験を履修する。
- ③ 食品製造・流通業、発酵・醸造業、医薬・製薬関連企業、化学工業、環境化学関連企業、農業関連団体、県市町村公務員、教員、大学院進学

[農学部獣医学科]

- ① 十分な倫理観を備え、優れた思考力や判断力に加えて自らの手で新分野を開拓する能力をもった獣医師になるための人材を育成する。
- ② 動物の体の仕組み、動物の病気の状態とその原因との関係、診断・予防・治療法の原理とその実践、動物の生産性の向上、ヒトと動物との関係と共通の病気などについて教育を行う。
- ③ 地方公務員（公衆衛生・家畜衛生）、大動物・小動物病院、企業（医薬品開発、食肉・食品関係、農場管理）、家畜共済（家畜臨床）、国家公務員（家畜衛生研究・行政、動物医薬品管理、動物検疫、公衆衛生研究・行政）、動物園・水族館、国際協力機構（JICA）、大学院進学

新設学部等において  
取得可能な資格

[農学部全学科共通]

- ・ 芸芸員資格取得 ①国家資格 ②資格取得可能 ③卒業単位に含まれる科目のほか、博物館関連科目の履修が必要

[農学部植物生産環境科学科]

- ・ 高校教諭1種(農業・理科) ①国家資格 ②資格取得可能 ③卒業単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要
- ・ 食品衛生監視員及び食品衛生管理者 ①国家資格 ②資格取得可能 ③指定された科目を履修が必要
- ・ 樹木医補資格取得 ①民間資格 ②資格取得可能 ③卒業単位に含まれる科目のほか、指定された科目の履修が必要

[農学部森林緑地環境科学科]

- ・ 高校教諭1種(農業・理科) ①国家資格 ②資格取得可能 ③卒業単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要
- ・ 測量士補資格 ①国家資格 ②資格取得可能 ③卒業単位に含まれる科目のほか指定された科目の履修が必要
- ・ 樹木医補資格取得 ①民間資格 ②資格取得可能 ③卒業単位に含まれる科目のほか、指定された科目の履修が必要
- ・ 環境再生医初級 ①民間資格 ②資格取得可能 ③卒業単位に含まれる科目のほか、指定された科目の履修が必要

[農学部応用生物科学科]

- ・ 高校教諭1種(農業・理科) ①国家資格 ②資格取得可能 ③卒業単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要
- ・ 技術士補 ①国家資格 ②資格取得可能 ③卒業単位を取得
- ・ 食品衛生監視員及び食品衛生管理者 ①国家資格 ②資格取得可能 ③指定された科目を履修が必要
- ・ 毒物・劇物取扱責任者 ①国家資格 ②資格取得可能 ③卒業単位を取得

[農学部海洋生物環境学科]

- ・ 高校教諭1種(水産・理科) ①国家資格 ②資格取得可能 ③卒業単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要
- ・ 食品衛生監視員及び食品衛生管理者 ①国家資格 ②資格取得可能 ③指定された科目を履修が必要

[農学部畜産草地科学科]

- ・ 高校教諭1種(農業・理科) ①国家資格 ②資格取得可能 ③卒業単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要
- ・ 食品衛生監視員及び食品衛生管理者 ①国家資格 ②資格取得可能 ③指定された科目の履修が必要
- ・ 家畜人工授精師 ①国家資格 ②資格取得可能 ③指定された科目の履修が必要
- ・ 飼料製造管理者 ①国家資格 ②資格取得可能 ③指定された科目の履修が必要
- ・ 実験動物一級技術者 ①民間資格 ②資格取得可能 ③指定された科目の履修が必要
- ・ 削蹄師 ①民間資格 ②資格取得可能 ③指定された科目の履修が必要
- ・ 環境衛生監視員 ①国家資格 ②資格取得可能 ③指定された科目の履修が必要

[農学部獣医学科]

- ・ 獣医師国家試験受験資格 ①国家資格 ②受験資格取得可能 ③卒業単位を取得し、卒業すること。
- ・ 高校教諭1種(農業) ①国家資格 ②資格取得可能 ③卒業単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要
- ・ 食品衛生監視員及び食品衛生管理者 ①国家資格 ②資格取得可能 ③指定された科目の履修が必要

既設学部等において  
取得可能な資格

[農学部全学科共通]

- ・学芸員資格取得 ①国家資格 ②資格取得可能 ③卒業単位に含まれる科目のほか、博物館関連科目の履修が必要
- ・樹木医補資格取得 ①民間資格 ②資格取得可能 ③卒業単位に含まれる科目のほか、指定された科目の履修が必要

[農学部食料生産科学科]

- ・高校教諭1種（農業・理科） ①国家資格 ②資格取得可能 ③卒業単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要
- ・食品衛生監視員及び食品衛生管理者 ①国家資格 ②資格取得可能 ③指定された科目を履修が必要

[農学部生物環境科学科]

- ・高校教諭1種（農業・水産・理科） ①国家資格 ②資格取得可能 ③卒業単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要
- ・食品衛生監視員及び食品衛生管理者 ①国家資格 ②資格取得可能 ③指定された科目の履修が必要

[農学部地域農業システム学科]

- ・高校教諭1種（農業） ①国家資格 ②資格取得可能 ③卒業単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要
- ・測量士補資格 ①国家資格 ②資格取得可能 ③指定された科目を履修が必要

[農学部応用生物科学科]

- ・高校教諭1種（農業・理科） ①国家資格 ②資格取得可能 ③卒業単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要
- ・技術士補 ①国家資格 ②資格取得可能 ③卒業科目を取得
- ・食品衛生監視員及び食品衛生管理者 ①国家資格 ②資格取得可能 ③指定された科目の履修が必要
- ・毒物劇物取扱責任者 ①国家資格 ②資格取得可能 ③卒業科目を取得

[農学部獣医学科]

- ・獣医師国家試験受験資格 ①国家資格 ②資格取得可能 ③卒業単位を取得
- ・高校教諭1種（農業） ①国家資格 ②資格取得可能 ③卒業単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要

	新設学部等の名称						授与する学位等		開設時期	専任教員		
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	学位又は学科の分野	異動元	助教以上		うち教授		
新設学部等の概要	農学部	植物生産環境科学科	4	50	0	200	学士(農学)	農学関係	平成22年4月	食料生産科学科	10	3
										地域農業システム学科	11	3
										計	21	6
		森林緑地環境科学科	4	50	0	200	学士(農学)	農学関係	平成22年4月	生物環境科学科	9	5
										地域農業システム学科	8	4
										新規採用	1	0
	計	18	9									
	応用生物科学科	4	55	0	220	学士(農学)	農学関係	平成22年4月	応用生物科学科	18	9	
									計	18	9	
	海洋生物環境学科	4	30	0	120	学士(農学)	農学関係	平成22年4月	生物環境科学科	11	8	
									計	11	8	
	畜産草地科学科	4	50	0	200	学士(農学)	農学関係	平成22年4月	食料生産科学科	8	4	
生物環境科学科									7	3		
地域農業システム学科									1	0		
新規採用									1	0		
計	17	7										
獣医学科	6	30	0	180	学士(獣医学)	獣医学関係	平成22年4月	獣医学科	27	12		
								新規採用	1	1		
								計	28	13		
既設学部等の概要(現在の状況)	既設学部等の名称						授与する学位等		開設時期	専任教員		
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	学位又は学科の分野	異動先	助教以上		うち教授		
	農学部	食料生産科学科(廃止)	4	60	0	240	学士(農学)	農学関係	平成12年4月	植物生産環境科学科	10	3
										畜産草地科学科	8	4
										退職	1	0
		計	19	7								
		生物環境科学科(廃止)	4	65	0	260	学士(農学)	農学関係	平成12年4月	海洋生物環境学科	11	8
										森林緑地環境科学科	9	5
	畜産草地科学科									7	3	
	退職									1	0	
	計	28	16									
地域農業システム学科(廃止)	4	55	0	220	学士(農学)	農学関係	平成12年4月	植物生産環境科学科	11	3		
								森林緑地環境科学科	8	4		
								畜産草地科学科	1	0		
計	20	7										
応用生物科学科(廃止)	4	55	0	220	学士(農学)	農学関係	平成12年4月	応用生物科学科	18	9		
								計	18	9		
獣医学科(廃止)	6	30	0	180	学士(獣医学)	獣医学関係	昭和24年6月	獣医学科	27	12		
								退職	1	1		
								計	28	13		
[備考欄]												

教育課程等の概要(事前伺い)																	
(農学部植物生産環境科学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
宮崎大学 基礎科目	日本語コミュニケーション	1前	2			○			1								
	情報科学入門	1前	2			○			1	4		1					
	<英語>																
	英語A1	1前	1				○										
	英語A2	1後	1				○										
	<コミュニケーション英語>																
	コミュニケーション英語Ac1	1前	1				○										
	コミュニケーション英語Ac2	1後	1				○										
	<初修外国語>																
	独語A1	1前		2			○										
	独語A2	1後		2			○										
	仏語A1	1前		2			○										
	仏語A2	1後		2			○										
	中国語A1	1前		2			○										
	中国語A2	1後		2			○										
	<保健体育科目>																
	健康スポーツ科学I																
	健康科学コース	1前		1			○										
	スポーツ科学コース	1前		1			○										
	生涯スポーツコース	1前		1			○										
健康スポーツ科学II																	
健康科学コース	1後		1			○											
スポーツ科学コース	1後		1			○											
生涯スポーツコース	1後		1			○											
小計(18科目)		—	8	18	0	—	—	—	2	4	0	1	0	0	—	—	
宮崎大学 共通教育科目	<現代の社会と倫理>																
	環境を考える	1前	2			○											
	人間と倫理I	1後		2		○											
	人間と倫理II	1後		2		○											
	言語と倫理	1後		2		○											
	人間の倫理と哲学	1後		2		○											
	医療倫理史	1後		2		○											
	<人間と文化>																
	西洋の哲学	1前		2		○											
	西洋の宗教	1前		2		○											
	人間の心と行動	1前		2		○											
	言語と文化	1前		2		○											
	日本の言語	1前		2		○											
	子どもとおとな	1前		2		○											
	日本の文学	1後		2		○											
	南アフリカ概論	1後		2		○											
	美術と文化	1後		2		○											
	音楽と人間	1後		2		○											
	暮らしを見つめる	1後		2		○											
	<現代社会の課題>																
風土・地域と人間	1前		2		○												
現代社会と歴史	1前		2		○												
現代社会と家族	1前		2		○												
現代社会と子供・青年	1前		2		○												
現代社会と政治	1後		2		○												
現代社会と法	1後		2		○												
現代社会と経済	1後		2		○												
<自然と生命>																	
科学史	1前		2		○												
数学の考え方	1前		2		○												
物理科学	1前		2		○												
物質の科学	1前		2		○												
生物科学	1後		2		○												
宇宙・地球科学	1後		2		○												
小計(30科目)		—	2	58	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	—	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
宮崎大学 共通教育 科目	<文化・社会系>																	
	宮崎県の経済と地域の活性化	2前		2		○												
	日本国憲法	2前		2		○												
	西洋史の諸問題	2前		2		○												
	現代社会と基礎理論	2前		2		○				1								
	魚・家畜・草の文化論	2前		2		○												
	産業と教育	2前		2		○												
	現代社会を読み解く	2前		2		○												
	保健医療社会学	2前		2		○												
	子どもと本	2後		2		○												
	近代小説を読む	2後		2		○												
	文学史	2後		2		○												
	比較高等教育入門	2後		2		○												
	科学の社会学	2後		2		○												
	<科学・技術系>																	
	図形の科学 I	2前		2		○												
	水を主題とする一般化学	2前		2		○												
	統計入門	2前		2		○												
	原子と原子核入門	2前		2		○												
	大気・海洋の流れ・波動	2前		2		○												
	音・光で考える物理学入門	2前		2		○												
	科学技術と私たちの生活	2前		2		○												
	分析と環境	2前		2		○												
	化学入門－電子のいたずら－	2前		2		○												
	宮崎の地質と自然景観	2前		2		○												
	微分積分学	2前		2		○												
	熱と流体の物理学	2前		2		○												
	運動の法則	2後		2		○												
	化学と社会との関わり	2後		2		○												
	ものの形と強さの科学	2後		2		○												
	統計学入門	2後		2		○												
	産学連携と知的財産	1後		2		○												
	光学の基礎	2後		2		○												
	<生命科学系>																	
	光と植物	2前		2		○												
	遺伝子操作入門	2前		2		○												
	遺伝子とゲノム	2前		2		○												
	感覚と神経	2前		2		○												
	動物の行動と進化	2前		2		○												
	医学実験動物学	2前		2		○												
	染色体の行動と遺伝	2後		2		○												
	生命と病気	2後		2		○												
	放射線と病気	2後		2		○												
	<複合・学際系>																	
	日本の自然と災害	2前		2		○												
	フィールド体験講座	2前		2		○												
	異文化交流体験学習	1前		2		○												
	フィールド体験学習指導講座	2前		2		○						1						
	分子生態学入門	2後		2		○												
	食文化論	2後		2		○												
	宮崎の歴史と文化	2後		2		○												
	<生涯学習系>																	
	生涯スポーツ実践 I	2前		1				○										
生涯スポーツ実践 II	2前		1				○											
ヘルスイエンス～予防医学へのいざない～	2前		2		○													
生涯学習論	2前		2		○													
心と体の臨床医学概論	2前		2		○													
生涯スポーツ実践 III	2後		1				○											
生涯スポーツ実践 IV	2後		1				○											
宮崎を学ぶ	2後		2		○													
ライフデザイン・キャリアデザイン入門	1後		2		○													
<外国語系>																		
選択英語 I	2前		2		○													
選択英語 II	2前		2		○													

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
宮崎大学 共通教育科目	選択英語Ⅲ	2前		2		○												
	選択英語Ⅳ	2前		2		○												
	選択ドイツ語Ⅰ	2前		2		○												
	選択フランス語Ⅰ	2前		2		○												
	選択中国語Ⅰ	2前		2		○												
	医療英語 (ENP B I)	2前		2		○												
	選択英語Ⅴ	2後		2		○												
	選択英語Ⅵ	2後		2		○												
	選択英語Ⅶ	2後		2		○												
	選択英語Ⅷ	2後		2		○												
	選択ドイツ語Ⅱ	2後		2		○												
	選択フランス語Ⅱ	2後		2		○												
	選択中国語Ⅱ	2後		2		○												
	<放送大学開講科目>																	
	中国語Ⅰ	2前・後		2		○												メ <sup>イ</sup>
	中国語Ⅱ	2前・後		2		○												メ <sup>イ</sup>
	中国語Ⅲ	2前・後		2		○												メ <sup>イ</sup>
	中国語Ⅳ	2前・後		2		○												メ <sup>イ</sup>
	ロシア語Ⅰ	2前・後		2		○												メ <sup>イ</sup>
	ロシア語Ⅱ	2前・後		2		○												メ <sup>イ</sup>
	スペイン語Ⅰ	2前・後		2		○												メ <sup>イ</sup>
	スペイン語Ⅱ	2前・後		2		○												メ <sup>イ</sup>
	小計 (79科目)		—	0	154	0	—			1	1	0	0	0	0	0	—	
	日本語Ⅰ	1・2・3・4前			1		○											
	日本語Ⅱ	1・2・3・4後			1		○											
	日本語Ⅲ	1・2・3・4前			1		○											
	日本語Ⅳ	1・2・3・4後			1		○											
日本事情Ⅰ	1・2・3・4前			2		○												
日本事情Ⅱ	1・2・3・4後			2		○												
日本事情Ⅲ	1・2・3・4前			2		○												
日本事情Ⅳ	1・2・3・4後			2		○												
日本事情Ⅴ	1・2・3・4前			2		○												
日本事情Ⅵ	1・2・3・4後			2		○												
日本事情Ⅶ	1・2・3・4前			2		○												
日本事情Ⅷ	1・2・3・4後			2		○												
小計 (12科目)		—	0	20	0	—			0	0	0	0	0	0	0	—		
計 (139科目)		—	10	250	0	—			3	5	0	1	0	0	0	—		
学部 共通科目	基礎植物学	1前	2			○			1	1		2			兼1	オムニバス		
	基礎動物学	1前		2		○										オムニバス		
	基礎化学	1前		2		○										オムニバス		
	基礎数学	1前		2		○				2						オムニバス		
	基礎物理学	1後		2		○				1		1				オムニバス		
	基礎統計学	1後	2			○				2						オムニバス		
	基礎生態学	1後		2		○				1					兼1	オムニバス		
	基礎微生物学	1後		2		○				1						オムニバス		
	基礎遺伝学	1前	2			○										オムニバス		
	基礎環境資源経済学	1後	2			○			1	1						オムニバス		
小計 (10科目)		—	8	12	0	—			2	7	0	3	0	兼1	—			
植物生産環境科学科	植物生産環境科学概論	1前	2			○			4	12		3		兼1	オムニバス			
	植物生産環境科学基礎実験・実習Ⅰ	1前	1				○		4	12		3		兼1	オムニバス			
	植物生産環境科学基礎実験・実習Ⅱ	1後	1				○		4	12		3		兼1	オムニバス			
	栽培学	1前	2			○				1								
	農業機械化論	1後		2		○				1								
	生物情報処理学	1後		2		○				1								
	農業システム学	2後		2		○			1									
	植物生理学	2前		2		○				1								
	農地環境工学	2前		2		○				1								
	小計 (9科目)		—	6	10	0	—			4	12	0	3	0	兼1	—		
植物生産環境科学科	農業動力機械学	1後		2		○				1								
	応用数学Ⅰ	1後		2		○				1								
	農場実習Ⅰ	2前		1				○	1	6		1		兼1				
	農場実習Ⅱ	2後		1				○	1	6		1		兼1				
	植物生産科学実験Ⅰ	2前		1				○	1	5		1		兼1				
	植物生産科学実験Ⅱ	2後		1				○	1	5		1		兼1				
	昆虫生態学	2前		2		○				1								
果樹園芸学総論	2前		2		○				1									



科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
植物生産環境科学科	総合的害虫管理学	2後		2		○				1					
	作物学総論	2前		2		○				1					
	植物病理学総論	2前		2		○				1					
	雑草防除学	2後		2		○									兼1
	観賞園芸学	3前		2		○									兼1
	野菜園芸学	2後		2		○									
	園芸利用学	2後		2		○				1					
	植物病理学各論	2後		2		○				1					
	果樹園芸生理学	2後		2		○						1			
	農業経済学	2前		2		○				1					
	栽培植物起源論	2前		2		○				1					
	社会統計学	2後		2		○			1	2					
	人間工学	2前		2		○			1						
	応用数学Ⅱ	2前		2		○									
	農業環境工学実験Ⅰ	2後		1			○			1			1		
	農業水力機械学	2後		2		○			1						
	生物応用力学Ⅰ	2後		2		○				1					
	学外体験実習	2前		2				○	4	12			3		兼1
	企画実習	2通		1				○		1					
	専門英語Ⅰ	3前	2				○		4	12			3		兼1
	果樹園芸学各論	3前		2		○				1			1		
	作物学各論	3前		2		○				1					
	青果代謝生理学	3前		2		○				1					
	施設園芸学	3前		2		○			1						
	バイオロジカル・コントロール	3後		2		○				1					
	作物生産技術学	3後		2		○				1					
	地域資源循環論	3前		2		○			1						
	環境植物学	3前		2		○							1		
	農業経営学	3前		2		○			1						
	農業政策論	3後		2		○			1	1					
	農業・社会調査実習	3前		1				○	1	2					
	国際農業論	3前		2		○									
	農産物流通論	3後		2		○									
	農業環境工学実験Ⅱ	3前		1				○		1			1		
	生物応用力学Ⅱ	3前		2		○				1					
	コンピュータ図学及び製図	3前		2		○							1		
	生物生産機械学	3後		2		○			1						
	生産流通施設学	3後		2		○				1					
	生物計測工学	3後		2		○							1		
	灌漑利水環境学	3前		2		○				1					
	農地環境保全学	3後		2		○				1					
	土の物理学	3前		2		○				1					
	グローバルアグリ体験講座	3前		2				○	4	12			3		兼1
専門英語Ⅱ	4前	2					○	4	12			3		兼1	
生物生産システム工学	3・4前		2		○									隔年開講	
入門セミナー	2後		1		○			4	12			3		兼1	
卒業論文	3～4通		6				○	6	12			3		兼1	
植物バイオテクノロジー	2前			2	○									兼1	
植物遺伝・育種学	2後			2	○									兼1	
樹木生態生理学	2後			2	○									兼1	
土壌肥料学	3前			2	○									兼1	
水文・気象学	2前			2	○									兼1	
小計(60科目)		—	11	104	0		—	6	12	0	3	0	兼2	—	
合計(218科目)		—	35	376	0		—	6	12	0	3	0	兼2	—	

学位又は称号	学士（農学）	学位又は学科の分野	農学関係
設置の趣旨・必要性			
<b>I. 設置の趣旨・必要性</b>			
<b>設置の趣旨：</b>			
<p>国立大学法人宮崎大学農学部は、「柔軟に幅広く農学専門分野を身につけさせ、主体性と創造性に富み、個性豊かで、国際的にも通用する人材（いわゆるゼネラリスト）」の育成を目指して教育を行ってきた。しかし、平成12年の改組以来、我が国の農業、あるいは大学の農学教育が担う役割は急激に変化しており、これまでより農業の専門性の高い人材育成を要望している。そのため、現在の農学部の学科組織では、本学理念の「変動する時代及び社会の多様な要請に応え得る人材の育成」や農学部の教育理念である「地域に根ざし世界の食料・環境問題の克服を目指す」の遂行が難しい状況になっている。そこで、本学農学部は、現5学科制を廃止し、近年の様々な課題（必要性）への対応を考慮した新たな6学科を設置することで、「広い視野で物事を考える総合的判断力や問題解決能力を涵養しつつ、社会の要請に応えるための高い専門性と技術を有した人材」を育成し、国内外の農業・食料・環境及び福祉等の問題解決に貢献する。専門性の高い技術者の養成を行うためには各学科単独での専門教育のみでは不可能であり、農学部全体で取り組まなければならない。結果的には、新6学科の中で4学科は名称変更を伴う改組とし、応用生物科学科と獣医学科の2学科については、学科の趣旨・目的・学生の入り口と出口などに即した名称になっており、既に技術者養成を指向していることや、地域の企業等や受験生・卒業生から認知されていることから、名称を変更することは、むしろ就職活動や学生募集にデメリットであると判断し、名称を変更しないこととした。しかし、応用生物科学科では今回の改組により、組織的には2つの講座「生物機能科学講座」と「食品機能化学講座」を統合し、従来の講座制を廃止した。また、カリキュラムでは、近年のバイオサイエンス分野や、食品の機能や安全性についての教育・研究ニーズに応えるために、新たに「バイオサイエンス」などの新科目を設けると同時に、必修科目の単位を47単位から65単位に増やすなど、より専門性を強化して、技術者の養成にさらに力を入れることとした。すなわち、講座制を廃止し、他学科との連携教育システムを構築し、必修科目を大幅に整備するなど、従前に比較して大きな改善を行った。また、獣医学科では、産業動物獣医師や食肉衛生関連獣医師養成のニーズに応えるために、畜産草地科学科等と連携して産業動物の教育に力を入れることとし、カリキュラムの大幅な改善を行った。さらに、今後予定している学科への教員配置なども今回の改組に沿ったものになるため、応用生物科学科と獣医学科も新たな学科としてスタートする必要がある。</p>			
<b>設置の必要性：</b>			
<b>1. 社会的ニーズの変化に対する対応</b>			
<p>我が国の食料自給率は年々減少し、現在40%弱で先進12カ国中最下位にある。農業後継者や農業技術者を養成し、食料生産を増加させ、食料自給率を向上させる事は極めて重要な課題である。また、近年、国民の食品や食料の安全に対する意識は高く、食品加工・流通・バイオテクノロジーなどに関連した農学教育・研究の重要性が増している。人のメタボリックシンドロームや高齢化も食品と健康に関する教育・研究の重要性を増加させている。さらに、地球の温暖化は益々深刻化しており、環境や農・水産物資源への対応が農学教育・研究に求められている。鳥や豚のインフルエンザやBSEを含めた人獣共通感染症に関する教育・研究の要請も年々強くなっている。以上のような社会的ニーズの変化に対応できる新たな教育組織が必要である。</p>			
<b>2. 施政に対する対応</b>			
<p>中央教育審議会（2005年4月）では、高等教育の将来像として「各大学が期待される役割・機能を十分に踏まえた教育・研究を展開すること、高度の専門職業人養成、幅広い職業人養成、社会貢献機能などにおいて、各大学が個性・特色を出すこと」を挙げている。しかし、現在の農学部はゼネラリストの養成を志向しており、専門職業人の養成に対応した学科編成になっていない。また、中央教育審議会大学教育部会（2006年12月：第9回）で論議された学士課程教育の現状と課題においては、「学士教育のアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー及びディプロマポリシーの明確化」が重要事項として挙げられているが、現在の幾つかの学科では教育や就職分野が異なる複数講座で構成されているため、それらへの対応が難しい状況にある。</p>			
<b>3. 地域社会に対する対応</b>			
<p>宮崎県は農業が主要産業であり、家畜をはじめ多くの農産物の生産高が全国の上位にある。これら県内農業に関係する産・官が農学部を期待する所は大きく、共同研究の依頼やアドバイザーの依頼など益々増加傾向にある。しかし現在、それらの依頼や要望に応えられる学科編成になっていない。</p>			
<b>4. 環境問題の変化に対する対応</b>			
<p>平成12年の改組当時の環境対策の焦点は、ダイオキシン特別措置法の実施、自動車排気ガスの規制実施、オゾン層保護のためのフロンガスの回収などであった。また、これに加えて、環境ホルモン、化学物質、廃棄ゴミなどの諸問題や河川、海洋の汚染などが注目されていた。しかし、近年、環境への取り組み方が、それぞれ地域における生態系の健全性の維持・回復に向けて、大きく変遷したと言える。特に、地球温暖化、リサイクル、海洋汚染防止、森林・緑地・河川・湖沼の保全などが重要なキーワードとして挙げられており、これらの諸課題に対処するためには、新たな組織を再構築し、それぞれの学科が、それぞれに直面する環境問題に対応しなければならない。</p>			
<b>5. 現在の5学科制での諸課題への対応</b>			
<p>現在の学科ではゼネラリスト養成を目指した教育の枠組みで編成されていたため、複数の異分野の講座が一つの学科に混在しており（例えば環境と言うキーワードで、水産科学講座、森林科学講座、草地環境科学講座が一緒になって一つの生物環境学科を構成している）、学生は入学後、2年次の後期にそれぞれのコース（講座）に振り分けられていた。この状況では学科のアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー及びディプロマポリシーの明確化ができなく入り口と出口が不透明であった。また、そのような学科の名称（地域農業システム学科や生物環境科学科など）からは就職先や教育内容を推測する事が難しく受験生や社会に対して不利益を生じることが外部から指摘された。さらに、異分野講座の複合からなる学科編成では専門的教育内容の充実が図れず、専門性の高い技術者を輩出できない状況にある。これらの諸課題へ対応する必要は大きい。</p>			
<b>○植物生産環境科学科設置の必要性</b>			
<p>農学教育の中で、植物生産を安定的・持続的にを行い、高品質で安心・安全な農業生産物の供給を行うための知識及び技術に関する教育・研究を行う組織として植物生産環境科学科が必要である。生態系の機能を活用し、環境と調和した持続的な植物生産、流通システムの開発、最適な機械技術・安全技術の開発、生産基盤及び物質循環型の農村空間の創出などに関わる一連の過程を対象とした本学科は、我が国の農産物の自給率向上、次世代の農業後継者、技術者及び研究者の育成を通して、宮崎県はもとより日本の農業の発展などに貢献する重要な役割を担う上で必要である。</p>			

## II. 教育課程編成の考え方及び特色

植物生産環境科学科のアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー及びディプロマポリシーを明確に特徴付けることで、受験生や社会に対しての学科の教育内容の透明性が増す。また、学生の希望や社会の情勢やニーズを十分に考慮しながら、他機関との連携なども摸索することで専門性の充実と多様化を計り、進路指導の改善ができる。

カリキュラムポリシー（植物の安定的・持続的生産を行い、安心・安全な農業生産物の供給を行うための農学全般に関わる基礎及び作物、園芸、植物病理、応用昆虫、農業環境工学、農業システム、農業経営・経済に関する専門知識を修得するため、講義、実習及び実習を体系的に編成し、重層的な教育を行う。）に基づき、カリキュラムの構成として、低学年次においては、「宮崎大学共通教育科目」と並列して「専門科目」の基礎となる生物学、化学、数学、物理学などを含む「学部共通科目」を履修させ、各学科の専門教育の導入に必要な「専門基盤科目」を設け履修させる。中・高学年次では「専門科目」が主となり、フィールドにおける体験や実験実習を重視した教育を実施する。

また、他学科と連携した専門教育を実施することで、より広範な専門知識を修得する。

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
「宮崎大学共通教育科目」 必修科目 10 単位 「大学教育基礎科目」の<初修外国語>の選択科目から 4 単位 <保健体育科目>の選択科目から 2 単位 「主題教養科目」の選択科目から 1 4 単位 「選択教養科目」の選択科目から 8 単位	1 学年の学期区分	2 期
	1 学年の授業期間	1 5 週
「学部共通科目」 必修科目 8 単位 選択科目から 6 単位  「植物生産環境科学科」 必修科目 1 7 単位 「専門基盤科目」の選択科目から 6 単位以上 「専門基盤科目」の選択科目及び「専門科目」の選択科目から 5 3 単位以上  従って卒業要件単位数は、 「宮崎大学共通教育科目」 3 8 単位 「学部共通科目」 1 4 単位 「植物生産科学科」 7 6 単位以上の合計 1 2 8 単位以上とする。 （履修科目の単位の上限： 5 0 単位（年間））	1 時限の授業時間	9 0 分

## 教育課程等の概要(事前伺い)

(農学部森林緑地環境科学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
宮崎大学 基礎科目	日本語コミュニケーション 情報科学入門	1前 1前	2 2			○ ○			1 1	4		1				
	<英語> 英語A1 英語A2	1前 1後	1 1				○ ○									
	<コミュニケーション英語> コミュニケーション英語Ac1 コミュニケーション英語Ac2	1前 1後	1 1				○ ○									
	<初修外国語> 独語A1 独語A2	1前 1後		2 2			○ ○									
	仏語A1 仏語A2	1前 1後		2 2			○ ○									
	中国語A1 中国語A2	1前 1後		2 2			○ ○									
	<保健体育科目> 健康スポーツ科学I 健康科学コース スポーツ科学コース 生涯スポーツコース	1前 1前 1前		1 1 1			○ ○ ○									
	健康スポーツ科学II 健康科学コース スポーツ科学コース 生涯スポーツコース	1後 1後 1後		1 1 1			○ ○ ○									
	小計(18科目)	—	8	18	0	—	—	—	2	4	0	1	0	0	—	
	宮崎大学 共通教育科目	<現代の社会と倫理> 環境を考える 人間と倫理I 人間と倫理II 言語と倫理 人間の倫理と哲学 医療倫理史	1前 1後 1後 1後 1後 1後	2			○ ○ ○ ○ ○ ○									
		<人間と文化> 西洋の哲学 西洋の宗教 人間の心と行動 言語と文化 日本の言語 子どもとおとな 日本の文学 南アフリカ概論 美術と文化 音楽と人間 暮らしを見つめる	1前 1前 1前 1前 1前 1前 1後 1後 1後 1後		2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2			○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○								
		<現代社会の課題> 風土・地域と人間 現代社会と歴史 現代社会と家族 現代社会と子供・青年 現代社会と政治 現代社会と法 現代社会と経済	1前 1前 1前 1前 1後 1後 1後		2 2 2 2 2 2 2			○ ○ ○ ○ ○ ○ ○								
		<自然と生命> 科学史 数学の考え方 物理科学 物質の科学 生物科学 宇宙・地球科学	1前 1前 1前 1前 1後 1後		2 2 2 2 2 2			○ ○ ○ ○ ○ ○								
		小計(30科目)	—	2	58	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考					
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手						
宮崎大学 共通教育 科目	<文化・社会系>																		
	宮崎県の経済と地域の活性化	2前		2		○													
	日本国憲法	2前		2		○													
	西洋史の諸問題	2前		2		○													
	現代社会と基礎理論	2前		2		○													
	魚・家畜・草の文化論	2前		2		○						1							
	産業と教育	2前		2		○													
	現代社会を読み解く	2前		2		○													
	保健医療社会学	2前		2		○													
	子どもと本	2後		2		○													
	近代小説を読む	2後		2		○													
	文学史	2後		2		○													
	比較高等教育論入門	2後		2		○													
	科学の社会学	2後		2		○													
	<科学・技術系>																		
	図形の科学Ⅰ	2前		2		○													
	水を主題とする一般化学	2前		2		○													
	統計入門	2前		2		○													
	原子と原子核入門	2前		2		○													
	大気・海洋の流れ・波動	2前		2		○													
	音・光で考える物理学入門	2前		2		○													
	科学技術と私たちの生活	2前		2		○													
	分析と環境	2前		2		○													
	化学入門－電子のいたずら－	2前		2		○													
	宮崎の地質と自然景観	2前		2		○													
	微積分学	2前		2		○													
	熱と流体の物理学	2前		2		○													
	運動の法則	2後		2		○													
	化学と社会との関わり	2後		2		○													
	ものの形と強さの科学	2後		2		○													
	統計学入門	2後		2		○													
	産学連携と知的財産	1後		2		○													
	光学の基礎	2後		2		○													
	<生命科学系>																		
	光と植物	2前		2		○													
	遺伝子操作入門	2前		2		○													
	遺伝子とゲノム	2前		2		○													
	感覚と神経	2前		2		○													
	動物の行動と進化	2前		2		○													
	医学実験動物学	2前		2		○													
	染色体の行動と遺伝	2後		2		○													
	生命と病気	2後		2		○													
	放射線と病気	2後		2		○													
	<複合・学際系>																		
	日本の自然と災害	2前		2		○													
	フィールド体験講座	2前		2		○													
異文化交流体験学習	1前		2		○														
フィールド体験学習指導講座	2前		2		○						1								
分子生態学入門	2後		2		○														
食文化論	2後		2		○														
宮崎の歴史と文化	2後		2		○														
<生涯学習系>																			
生涯スポーツ実践Ⅰ	2前		1				○												
生涯スポーツ実践Ⅱ	2前		1				○												
ヘルスイェンス～予防医学へのいざない～	2前		2		○														
生涯学習論	2前		2		○														
心と体の臨床医学概論	2前		2		○														
生涯スポーツ実践Ⅲ	2後		1				○												
生涯スポーツ実践Ⅳ	2後		1				○												
宮崎を学ぶ	2後		2		○														
ライフデザイン・キャリアデザイン入門	1後		2		○														
<外国語系>																			
選択英語Ⅰ	2前		2		○														
選択英語Ⅱ	2前		2		○														

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
宮崎大学 共通教育科目	選択英語Ⅲ	2前		2		○												
	選択英語Ⅳ	2前		2		○												
	選択ドイツ語Ⅰ	2前		2		○												
	選択フランス語Ⅰ	2前		2		○												
	選択中国語Ⅰ	2前		2		○												
	医療英語 (ENP B I)	2前		2		○												
	選択英語Ⅴ	2後		2		○												
	選択英語Ⅵ	2後		2		○												
	選択英語Ⅶ	2後		2		○												
	選択英語Ⅷ	2後		2		○												
	選択ドイツ語Ⅱ	2後		2		○												
	選択フランス語Ⅱ	2後		2		○												
	選択中国語Ⅱ	2後		2		○												
	<放送大学開講科目>																	
	中国語Ⅰ	2前・後		2		○												メ°イ
	中国語Ⅱ	2前・後		2		○												メ°イ
	中国語Ⅲ	2前・後		2		○												メ°イ
	中国語Ⅳ	2前・後		2		○												メ°イ
	ロシア語Ⅰ	2前・後		2		○												メ°イ
	ロシア語Ⅱ	2前・後		2		○												メ°イ
	スペイン語Ⅰ	2前・後		2		○												メ°イ
	スペイン語Ⅱ	2前・後		2		○												メ°イ
	小計 (79科目)		—	0	154	0	—			1	1	0	0	0	0	0	0	—
	日本語Ⅰ	1・2・3・4前			1		○											
	日本語Ⅱ	1・2・3・4後			1		○											
	日本語Ⅲ	1・2・3・4前			1		○											
	日本語Ⅳ	1・2・3・4後			1		○											
日本事情Ⅰ	1・2・3・4前			2		○												
日本事情Ⅱ	1・2・3・4後			2		○												
日本事情Ⅲ	1・2・3・4前			2		○												
日本事情Ⅳ	1・2・3・4後			2		○												
日本事情Ⅴ	1・2・3・4前			2		○												
日本事情Ⅵ	1・2・3・4後			2		○												
日本事情Ⅶ	1・2・3・4前			2		○												
日本事情Ⅷ	1・2・3・4後			2		○												
小計 (12科目)		—	0	20	0	—			0	0	0	0	0	0	0	0	—	
計(139科目)		—	10	250	0	—			3	5	0	1	0	0	0	0	—	
学部 共通科目	基礎植物学	1前	2			○			1	2							オムニバス	
	基礎動物学	1前		2		○											オムニバス	
	基礎化学	1前		2		○			1								オムニバス	
	基礎数学	1前		2		○			2	2		1					オムニバス	
	基礎物理学	1後		2		○			3	3							オムニバス	
	基礎統計学	1後	2			○			1								オムニバス	
	基礎生態学	1後		2		○			2								オムニバス	
	基礎微生物学	1後		2		○											オムニバス	
	基礎遺伝学	1前		2		○											オムニバス	
	基礎環境資源経済学	1後		2		○			1			1					オムニバス	
	小計 (10科目)		—	6	14	0	—			9	5	0	2	0	0	0	—	
森林緑地環境科学科 専門基盤科目	森林緑地環境科学概論	1前	2			○			9	7		2					オムニバス	
	森林緑地フィールド実習Ⅰ	1前	1				○		9	7		2					集中・オムニバス	
	樹木学	2前	2			○				1								
	森林生態学	2前	2			○			1									
	水文・気象学	2前	2			○				1		1						
	森林計測学	2前	2			○			1									
	測量学Ⅰ	2前	2			○			1									
	構造力学	2後	2			○			1	1								
	環境計測学	1後	2			○				1		1						
	測量学実習Ⅰ	2前	1				○		1	3		1						
	構造力学演習	2後	1					○	1	1								
	森林緑地フィールド実習Ⅱ	2前	1				○		9	7		2					集中・オムニバス	
	環境リモートセンシング概論	2前		2			○			1								
	遺伝生態学	2前		2			○		1									
	測量学Ⅱ	2後		2			○		1									
	測量学実習Ⅱ	2通		1				○	1			1					集中	
樹木学実習	2前		1				○		1							集中		
森林計測学実習	2後		1				○	1								集中		
小計 (18科目)		—	20	9	0	—			9	7	0	2	0	0	0	—		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
森林緑地環境科学科	専門科目	木本植物組織学	2前	2			○				1					
		森林経済学	2後	2			○				1					
		木材化学	2後	2			○				1					
		砂防学	2後	2			○					1				
		木材理学	2後	2			○				1					
		森林バイオマス科学	2後	2			○					1				
		入門セミナー	2後	1					○		9	7		2		
		木本植物組織学実験	2前		1				○		1	1				
		樹木生態生理学	2後		2			○			1					
		木材理学実験	2後		1				○		1	1				
		木材化学実験	2後		1				○		1	1				
		森林計画学	3前	2				○			1					
		環境材料学	3前	2				○				1				
		生態緑化学	3前	2				○			1					
		森林政策学	3前		2			○			1			1		
		造林学	3前	2				○			1					
		水資源管理学	3後	2				○						1		
		農山村環境計画学	3後	2				○			1	1				
		専門英語	3後	2				○			9	7		2		集中
		木質材料学	3後		2			○			1	1				
		きのこ学	3前	2				○			1					
		水理学	3前	2				○			1					
		土質力学	3前	2				○				1				
		流域防災保全学	3前	2				○				1				
		植生立地学	3後	2				○			1	1				
		森林資源利用化学	3後	2				○				1				
		環境緑地学	3後	2				○			1					
		森林緑地関係法律学	3後	2				○			1					
		森林社会学	3後	2				○						1		
		ランドスケープ論	3後	2				○			1					
		水理学演習	3前	1					○					1		
		土質力学演習	3前	1					○			1				
		環境材料学実験	3後	1					○		1	1				
		森林バイオマス科学実験	3前	1					○		1	1				
		水理・土質実験	3後	1					○			1		1		
		植生調査実習	3後	1					○		1	1				集中
		森林計画学実習	3後	1					○		1					集中
		造林学実験実習	3通	1					○		2					集中
		学外研修	3前	1					○		9	7		2		集中
		卒業論文	4通	4					○		9	7		2		
		植物病理学総論	3前		2			○								
		植物病理学各論	3後		2			○								
		雑草防除学	3後		2			○								
		昆虫生態学	3前		2			○								
		総合的害虫管理学	3後		2			○								
		土壌肥科学	3前		2			○								
小計 (46科目)		—	31	50	0	—			9	7	0	2	0	0	—	
合計 (213科目)		—	67	323	0	—			9	7	0	2	0	0	—	

学位又は称号	学士（農学）	学位又は学科の分野	農学関係
設置の趣旨・必要性			
<b>I. 設置の趣旨・必要性</b>			
<b>設置の趣旨：</b>			
<p>国立大学法人宮崎大学農学部は、「柔軟に幅広く農学専門分野を身につけさせ、主体性と創造性に富み、個性豊かで、国際的にも通用する人材（いわゆるゼネラリスト）」の育成を目指して教育を行ってきた。しかし、平成12年の改組以来、我が国の農業、あるいは大学の農学教育が担う役割は急激に変化しており、これまでより農業の専門性の高い人材育成を要望している。そのため、現在の農学部の学科組織では、本学理念の「変動する時代及び社会の多様な要請に応え得る人材の育成」や農学部の教育理念である「地域に根ざし世界の食料・環境問題の克服を目指す」の遂行が難しい状況になっている。そこで、本学農学部は、現5学科制を廃止し、近年の様々な課題（必要性）への対応を考慮した新たな6学科を設置することで、「広い視野で物事を考える総合的判断力や問題解決能力を涵養しつつ、社会の要請に応えるための高い専門性と技術を有した人材」を育成し、国内外の農業・食料・環境及び福祉等の問題解決に貢献する。専門性の高い技術者の養成を行うためには各学科単独での専門教育のみでは不可能であり、農学部全体で取り組まなければならない。結果的には、新6学科の中で4学科は名称変更を伴う改組とし、応用生物科学科と獣医学科の2学科については、学科の趣旨・目的・学生の入り口と出口などに即した名称になっており、既に技術者養成を指向していることや、地域の企業等や受験生・卒業生から認知されていることから、名称を変更することは、むしろ就職活動や学生募集にデメリットであると判断し、名称を変更しないこととした。しかし、応用生物科学科では今回の改組により、組織的には2つの講座「生物機能科学講座」と「食品機能化学講座」を統合し、従来の講座制を廃止した。また、カリキュラムでは、近年のバイオサイエンス分野や、食品の機能や安全性についての教育・研究ニーズに応えるために、新たに「バイオサイエンス」などの新科目を設けると同時に、必修科目の単位を47単位から65単位に増やすなど、より専門性を強化して、技術者の養成にさらに力を入れることとした。すなわち、講座制を廃止し、他学科との連携教育システムを構築し、必修科目を大幅に整備するなど、従前に比較して大きな改善を行った。また、獣医学科では、産業動物獣医師や食肉衛生関連獣医師養成のニーズに応えるために、畜産草地科学科等と連携して産業動物の教育に力を入れることとし、カリキュラムの大幅な改善を行った。さらに、今後予定している学科への教員配置なども今回の改組に沿ったものになるため、応用生物科学科と獣医学科も新たな学科としてスタートする必要がある。</p>			
<b>設置の必要性：</b>			
<b>1. 社会的ニーズの変化に対する対応</b>			
<p>我が国の食料自給率は年々減少し、現在40%弱で先進12カ国中最下位にある。農業後継者や農業技術者を養成し、食料生産を増加させ、食料自給率を向上させる事は極めて重要な課題である。また、近年、国民の食品や食料の安全に対する意識は高く、食品加工・流通・バイオテクノロジーなどに関連した農学教育・研究の重要性が増している。人のメタボリックシンドロームや高齢化も食品と健康に関する教育・研究の重要性を増加させている。さらに、地球の温暖化は益々深刻化しており、環境や農・水産物資源への対応が農学教育・研究に求められている。鳥や豚のインフルエンザやBSEを含めた人獣共通感染症に関する教育・研究の要請も年々強くなっている。以上のような社会的ニーズの変化に対応できる新たな教育組織が必要である。</p>			
<b>2. 施政に対する対応</b>			
<p>中央教育審議会（2005年4月）では、高等教育の将来像として「各大学が期待される役割・機能を十分に踏まえた教育・研究を展開すること、高度の専門職業人養成、幅広い職業人養成、社会貢献機能などにおいて、各大学が個性・特色を出すこと」を挙げている。しかし、現在の農学部はゼネラリストの養成を志向しており、専門職業人の養成に対応した学科編成になっていない。また、中央教育審議会大学教育部会（2006年12月：第9回）で議論された学士課程教育の現状と課題においては、「学士教育のアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー及びディプロマポリシーの明確化」が重要事項として挙げられているが、現在の幾つかの学科では教育や就職分野が異なる複数講座で構成されているため、それらへの対応が難しい状況にある。</p>			
<b>3. 地域社会に対する対応</b>			
<p>宮崎県は農業が主要産業であり、家畜をはじめ多くの農産物の生産高が全国の上位にある。これら県内農業に係る産・官が農学部を期待する所は大きく、共同研究の依頼やアドバイザーの依頼など益々増加傾向にある。しかし現在、それらの依頼や要望に応えられる学科編成になっていない。</p>			
<b>4. 環境問題の変化に対する対応</b>			
<p>平成12年の改組当時の環境対策の焦点は、ダイオキシン特別措置法の実施、自動車排気ガスの規制実施、オゾン層保護のためのフロンガスの回収などであった。また、これに加えて、環境ホルモン、化学物質、廃棄ゴミなどの諸問題や河川、海洋の汚染などが注目されていた。しかし、近年、環境への取り組み方が、それぞれ地域における生態系の健全性の維持・回復に向けて、大きく変遷したと言える。特に、地球温暖化、リサイクル、海洋汚染防止、森林・緑地・河川・湖沼の保全などが重要なキーワードとして挙げられており、これらの諸課題に対処するためには、新たな組織を再構築し、それぞれの学科が、それぞれに直面する環境問題に対応しなければならない。</p>			
<b>5. 現在の5学科制での諸課題への対応</b>			
<p>現在の学科ではゼネラリスト養成を目指した教育の枠組みで編成されていたため、複数の異分野の講座が一つの学科に混在しており（例えば環境と言うキーワードで、水産科学講座、森林科学講座、草地環境科学講座が一緒になって一つの生物環境学科を構成している）、学生は入学後、2年次の後期にそれぞれのコース（講座）に振り分けられていた。この状況では学科のアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー及びディプロマポリシーの明確化ができなく入り口と出口が不透明であった。また、そのような学科の名称（地域農業システム学科や生物環境科学科など）からは就職先や教育内容を推測する事が難しく受験生や社会に対して不利益を生じることが外部から指摘された。さらに、異分野講座の複合からなる学科編成では専門的教育内容の充実が図れず、専門性の高い技術者を輩出できない状況にある。これらの諸課題へ対応する必要は大きい。</p>			
<b>○森林緑地環境学科設置の必要性</b>			
<p>農学教育の中で、森林・農山村・都市域を相互に作用し合う一つの連続した空間として捉え、自然環境・生活環境の保全等を目的に森林ならびに生産緑地、環境緑地の機能に関する広い知識及び技術に関する教育・研究を行う組織として森林緑地環境科学科が必要である。本学科は、森林資源の育成・利用、森林・里地の自然環境保全や生態系修復、都市緑地の計画・管理、流域全体を視野に入れた防災や水資源の安定的な利用、さらにはこれらを実現するための社会経済システムの構築など、安全で快適な生活環境と生物資源利用の調和を目指した森林緑地管理を計画・実行でき、国際的な視野で地域の課題に柔軟に対応できる人材の育成を担う。また、本学科は森林緑地の樹木・菌類資源の利用技術開発や生活環境保全のための非生物材料などの特性の解明、さらには環境と調和した材料の創製ならびに地域の緑化に応用できる技術者を養成する上でも必要な学科である。</p>			



## II. 教育課程編成の考え方及び特色

森林緑地環境科学科のアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー及びディプロマポリシーを明確に特徴付けることで、受験生や社会に対しての学科の教育内容の透明性が増す。また、学生の希望や社会の情勢やニーズを十分に考慮しながら、他機関との連携なども模索することで専門性の充実と多様化を計り、進路指導の改善ができる。

カリキュラムポリシー（森林・農山村・都市域の自然環境・生活環境の保全やその基盤となる国土管理について、双方に共通する生態、水文、設計などの専門基礎科目と森林資源育成・利用、緑化、防災、材料利用等の専門科目を体系的に編成し、実験や実習によるフィールド重視の専門技術者養成教育を行う。）に基づき、カリキュラムの構成として、低学年次においては、「宮崎大学共通教育科目」と並列して「専門科目」の基礎となる生物学、化学、数学、物理学などを含む「学部共通科目」を履修させ、各学科の専門教育の導入に必要な「専門基盤科目」を設け履修させる。中・高学年次では「専門科目」が主となり、フィールドにおける体験や実験実習を重視した教育を実施する。また、他学科と連携した専門教育を実施することで、より広範な専門知識を修得する。特に本学科のカリキュラムの特色として、「環境計測学」、「水文・気象学」等の専門基盤科目や、「水資源管理学」、「環境緑地学」、「生態緑化学」、「流域防災保全学」、「ランドスケープ論」、「農山村環境計画学」、「植生立地学」等の専門科目により、森林から都市域までを相互に作用する連続した空間と捉える視点と専門知識を修得させる。

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
「宮崎大学共通教育科目」 必修科目 10 単位 「大学教育基礎科目」の<初修外国語>の選択科目から 4 単位 <保健体育科目>の選択科目から 2 単位 「主題教養科目」の選択科目から 1 4 単位 「選択教養科目」の選択科目から 8 単位  「学部共通科目」 必修科目 6 単位 選択科目から 8 単位以上  「森林緑地環境科学科」 必修科目 5 1 単位 「専門基盤科目」の選択科目から 6 単位以上 「専門科目」の選択科目から 1 9 単位以上  従って卒業要件単位数は、 「宮崎大学共通教育科目」 3 8 単位 「学部共通科目」 1 4 単位 「森林緑地環境科学科」 7 6 単位以上の合計 1 2 8 単位以上とする。 （履修科目の単位の上限：5 0 単位（年間））	1 学年の学期区分	2 期
	1 学年の授業期間	1 5 週
	1 時限の授業時間	9 0 分

## 教育課程等の概要(事前伺い)

(農学部応用生物科学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
宮崎大学 基礎科目	日本語コミュニケーション	1前	2			○			1						
	情報科学入門	1前	2			○			1	4		1			
	<英語>														
	英語A1	1前	1				○								
	英語A2	1後	1				○								
	<コミュニケーション英語>														
	コミュニケーション英語Ac1	1前	1				○								
	コミュニケーション英語Ac2	1後	1				○								
	<初修外国語>														
	独語A1	1前		2			○								
	独語A2	1後		2			○								
	仏語A1	1前		2			○								
	仏語A2	1後		2			○								
	中国語A1	1前		2			○								
	中国語A2	1後		2			○								
	<保健体育科目>														
	健康スポーツ科学I														
	健康科学コース	1前		1			○								
	スポーツ科学コース	1前		1			○								
	生涯スポーツコース	1前		1			○								
健康スポーツ科学II															
健康科学コース	1後		1			○									
スポーツ科学コース	1後		1			○									
生涯スポーツコース	1後		1			○									
小計(18科目)		—	8	18	0	—	—	—	2	4	0	1	0	0	—
宮崎大学 共通教育科目	<現代の社会と倫理>														
	環境を考える	1前	2			○									
	人間と倫理I	1後		2		○									
	人間と倫理II	1後		2		○									
	言語と倫理	1後		2		○									
	人間の倫理と哲学	1後		2		○									
	医療倫理史	1後		2		○									
	<人間と文化>														
	西洋の哲学	1前		2		○									
	西洋の宗教	1前		2		○									
	人間の心と行動	1前		2		○									
	言語と文化	1前		2		○									
	日本の言語	1前		2		○									
	子どもとおとな	1前		2		○									
	日本の文学	1後		2		○									
	南アフリカ概論	1後		2		○									
	美術と文化	1後		2		○									
	音楽と人間	1後		2		○									
	暮らしを見つめる	1後		2		○									
	<現代社会の課題>														
風土・地域と人間	1前		2		○										
現代社会と歴史	1前		2		○										
現代社会と家族	1前		2		○										
現代社会と子供・青年	1前		2		○										
現代社会と政治	1後		2		○										
現代社会と法	1後		2		○										
現代社会と経済	1後		2		○										
<自然と生命>															
科学史	1前		2		○										
数学の考え方	1前		2		○										
物理科学	1前		2		○										
物質の科学	1前		2		○										
生物科学	1後		2		○										
宇宙・地球科学	1後		2		○										
小計(30科目)		—	2	58	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考					
			必	選	自	講	演	実験・実習	教	准	講	助	助						
			修	択	由	義	習		授	授	師	教	手						
宮崎大学 共通教育科目	<文化・社会系>																		
	宮崎県の経済と地域の活性化	2前		2		○					1								
	日本国憲法	2前		2		○													
	西洋史の諸問題	2前		2		○													
	現代社会と基礎理論	2前		2		○													
	魚・家畜・草の文化論	2前		2		○													
	産業と教育	2前		2		○													
	現代社会を読み解く	2前		2		○													
	保健医療社会学	2前		2		○													
	子どもと本	2後		2		○													
	近代小説を読む	2後		2		○													
	文学史	2後		2		○													
	比較高等教育論入門	2後		2		○													
	科学の社会学	2後		2		○													
	<科学・技術系>																		
	図形の科学Ⅰ	2前		2		○													
	水を主題とする一般化学	2前		2		○													
	統計入門	2前		2		○													
	原子と原子核入門	2前		2		○													
	大気・海洋の流れ・波動	2前		2		○													
	音・光で考える物理学入門	2前		2		○													
	科学技術と私たちの生活	2前		2		○													
	分析と環境	2前		2		○													
	化学入門ー電子のいたずらー	2前		2		○													
	宮崎の地質と自然景観	2前		2		○													
	微分積分学	2前		2		○													
	熱と流体の物理学	2前		2		○													
	運動の法則	2後		2		○													
	化学と社会との関わり	2後		2		○													
	ものの形と強さの科学	2後		2		○													
	統計学入門	2後		2		○													
	産学連携と知的財産	1後		2		○													
	光学の基礎	2後		2		○													
	<生命科学系>																		
	光と植物	2前		2		○													
	遺伝子操作入門	2前		2		○													
	遺伝子とゲノム	2前		2		○													
	感覚と神経	2前		2		○													
	動物の行動と進化	2前		2		○													
	医学実験動物学	2前		2		○													
	染色体の行動と遺伝	2後		2		○													
	生命と病気	2後		2		○													
	放射線と病気	2後		2		○													
	<複合・学際系>																		
	日本の自然と災害	2前		2		○													
	フィールド体験講座	2前		2		○													
	異文化交流体験学習	1前		2		○													
	フィールド体験学習指導講座	2前		2		○						1							
	分子生態学入門	2後		2		○													
	食文化論	2後		2		○													
	宮崎の歴史と文化	2後		2		○													
	<生涯学習系>																		
	生涯スポーツ実践Ⅰ	2前		1			○												
	生涯スポーツ実践Ⅱ	2前		1			○												
	ヘルスイエンス～予防医学へのいざない～	2前		2		○													
	生涯学習論	2前		2		○													
	心と体の臨床医学概論	2前		2		○													
	生涯スポーツ実践Ⅲ	2後		1			○												
	生涯スポーツ実践Ⅳ	2後		1			○												
	宮崎を学ぶ	2後		2		○													
	ライフデザイン・キャリアデザイン入門	1後		2															
	<外国語系>																		
選択英語Ⅰ	2前		2		○														
選択英語Ⅱ	2前		2		○														

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
宮崎大学 共通教育科目	選択英語Ⅲ	2前		2		○												
	選択英語Ⅳ	2前		2		○												
	選択ドイツ語Ⅰ	2前		2		○												
	選択フランス語Ⅰ	2前		2		○												
	選択中国語Ⅰ	2前		2		○												
	医療英語 (ENP B I)	2前		2		○												
	選択英語Ⅴ	2後		2		○												
	選択英語Ⅵ	2後		2		○												
	選択英語Ⅶ	2後		2		○												
	選択英語Ⅷ	2後		2		○												
	選択ドイツ語Ⅱ	2後		2		○												
	選択フランス語Ⅱ	2後		2		○												
	選択中国語Ⅱ	2後		2		○												
	<放送大学開講科目>																	
	中国語Ⅰ	2前・後		2		○												イ
	中国語Ⅱ	2前・後		2		○												イ
	中国語Ⅲ	2前・後		2		○												イ
	中国語Ⅳ	2前・後		2		○												イ
	ロシア語Ⅰ	2前・後		2		○												イ
	ロシア語Ⅱ	2前・後		2		○												イ
	スペイン語Ⅰ	2前・後		2		○												イ
	スペイン語Ⅱ	2前・後		2		○												イ
	小計 (79科目)		—	0	154	0	—			1	1	0	0	0	0	0	0	—
	日本語Ⅰ	1・2・3・4前		1		○												
	日本語Ⅱ	1・2・3・4後		1		○												
	日本語Ⅲ	1・2・3・4前		1		○												
	日本語Ⅳ	1・2・3・4後		1		○												
日本事情Ⅰ	1・2・3・4前		2		○													
日本事情Ⅱ	1・2・3・4後		2		○													
日本事情Ⅲ	1・2・3・4前		2		○													
日本事情Ⅳ	1・2・3・4後		2		○													
日本事情Ⅴ	1・2・3・4前		2		○													
日本事情Ⅵ	1・2・3・4後		2		○													
日本事情Ⅶ	1・2・3・4前		2		○													
日本事情Ⅷ	1・2・3・4後		2		○													
小計 (12科目)		—	0	20	0	—			0	0	0	0	0	0	0	0	—	
計 (139科目)		—	10	250	0	—			3	5	0	1	0	0	0	0	—	
学部共通科目	基礎植物学	1前		2		○			1								オムニバス	
	基礎動物学	1前		2		○			2								オムニバス	
	基礎化学	1前	2			○			2	4		1					オムニバス	
	基礎数学	1前		2		○											オムニバス	
	基礎物理学	1後		2		○											オムニバス	
	基礎統計学	1後	2			○			1			1					オムニバス	
	基礎生態学	1後		2		○				1							オムニバス	
	基礎微生物学	1後	2			○			1	1							オムニバス	
	基礎遺伝学	1前	2			○											オムニバス	
	基礎環境資源経済学	1後		2		○											オムニバス	
	小計 (10科目)		—	8	12	0	—			7	5	0	2	0	0	0	—	
応用生物科学科 専門基盤科目	有機化学	1前		2		○			1								兼1	
	物理化学	1前		2		○												
	無機化学	1後		2		○					1							
	分析化学	2後		2		○					1							
	生物化学Ⅰ	1後		2		○			1	2								
	生物学実験	2前		1				○	3								オムニバス	
	分析化学実験	2前		1				○	1	2			1					
	機器分析化学実験	2前		1				○	1	2			1					
	有機化学実験	2後		1				○	2	2								
	微生物学実験	2後		1				○	1	1								
	生物化学実験	2後		1				○	1	2								
	生物有機化学	2前		2			○		1									
	生物化学Ⅱ	2前		2			○			1								
	食品化学	2前		2			○			1								
	生命化学概論	2後		2			○			1	1							
	応用生物科学概論	2後		2			○			9	7		2				オムニバス	
	技術者倫理	3後		1			○										兼1	
小計 (17科目)		—	27	0	0	—			9	7	0	2	0	0	0	兼2		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
応用生物科学科 専門科目	土壌肥科学	2前	2			○				1				兼1 集中, 隔年開講 オムニハス オムニハス オムニハス オムニハス オムニハス
	食品製造学	2前	2			○				1		1		
	食品衛生学	2前	2			○			1					
	食品工学	2～3前		2		○								
	微生物化学	2後	2			○			1					
	植物遺伝・育種学	2後	2			○			1					
	酵素化学	2後	2			○			1	1				
	栄養化学	2後	2			○			1					
	食品分析化学	2後	2			○			1			1		
	食品保蔵化学	3後	2			○				1				
	入門セミナーⅠ	3前	1				○		9	7		2		
	入門セミナーⅡ	3後	1				○		9	7		2		
	化学英語Ⅰ	3前	2				○		1	1				
	化学英語Ⅱ	3後	2				○		1	1				
	バイオサイエンス	3前		2			○		9	7		2		
	細胞工学	3前		2			○			1				
	植物遺伝資源学	3前		2			○		1					
	水産食品製造学	3前		2			○			1				
	植物栄養生化学	3後		2			○					1		
	農産食品製造学	3後		2			○			1				
	畜産食品製造学	3後		2			○		1					
	遺伝子工学	3後		2			○		1					
	微生物機能開発学	3後		2			○			1				
	植物生産化学実験	3前		1				○		1		1		
	応用生物化学実験	3前		1					○	2	1			
	食品栄養化学実験	3前		2					○	2	1		1	
	植物機能開発学実験	3後		1					○	2				
	応用微生物学実験	3後		1					○	2	1			
	食品製造学実験・実習	3後		2					○	1	2			
	学外研修	3後		2					○	9	7		2	
科学英語	4前		2			○			9	7		2		
技術英語	4後		1				○		9	7		2		
卒業論文	4通		6				○		9	7		2		
植物生理学	3前		2			○								
公衆衛生学	3前		2			○								
同位元素利用論	4前		2			○								
小計 (36科目)		-	30	39	0	-	-		9	7	0	2	0	兼1 -
合計 (202科目)		-	75	301	0	-	-		9	7	0	2	0	兼3 -

学位又は称号	学士（農学）	学位又は学科の分野	農学関係
設置の趣旨・必要性			
<b>I. 設置の趣旨・必要性</b>			
<b>設置の趣旨：</b>			
<p>国立大学法人宮崎大学農学部は、「柔軟に幅広く農学専門分野を身につけさせ、主体性と創造性に富み、個性豊かで、国際的にも通用する人材（いわゆるゼネラリスト）」の育成を目指して教育を行ってきた。しかし、平成12年の改組以来、我が国の農業、あるいは大学の農学教育が担う役割は急激に変化しており、これまでより農業の専門性の高い人材育成を要望している。そのため、現在の農学部の学科組織では、本学理念の「変動する時代及び社会の多様な要請に応え得る人材の育成」や農学部の教育理念である「地域に根ざし世界の食料・環境問題の克服を目指す」の遂行が難しい状況になっている。そこで、本学農学部は、現5学科制を廃止し、近年の様々な課題（必要性）への対応を考慮した新たな6学科を設置することで、「広い視野で物事を考える総合的判断力や問題解決能力を涵養しつつ、社会の要請に応えるための高い専門性と技術を有した人材」を育成し、国内外の農業・食料・環境及び福祉等の問題解決に貢献する。専門性の高い技術者の養成を行うためには各学科単独での専門教育のみでは不可能であり、農学部全体で取り組まなければならない。結果的には、新6学科の中で4学科は名称変更を伴う改組とし、応用生物科学科と獣医学科の2学科については、学科の趣旨・目的・学生の入り口と出口などに即した名称になっており、既に技術者養成を指向していることや、地域の企業等や受験生・卒業生から認知されていることから、名称を変更することは、むしろ就職活動や学生募集にデメリットであると判断し、名称を変更しないこととした。しかし、応用生物科学科では今回の改組により、組織的には2つの講座「生物機能科学講座」と「食品機能化学講座」を統合し、従来の講座制を廃止した。また、カリキュラムでは、近年のバイオサイエンス分野や、食品の機能や安全性についての教育・研究ニーズに応えるために、新たに「バイオサイエンス」などの新科目を設けると同時に、必修科目の単位を47単位から65単位に増やすなど、より専門性を強化して、技術者の養成にさらに力を入れることとした。すなわち、講座制を廃止し、他学科との連携教育システムを構築し、必須教科を大幅に整備するなど、従前に比較して大きな改善を行った。また、獣医学科では、産業動物獣医師や食肉衛生関連獣医師養成のニーズに応えるために、畜産草地科学科等と連携して産業動物の教育に力を入れることとし、カリキュラムの大幅な改善を行った。さらに、今後予定している学科への教員配置なども今回の改組に沿ったものになるため、応用生物科学科と獣医学科も新たな学科としてスタートする必要がある。</p>			
<b>設置の必要性：</b>			
<b>1. 社会的ニーズの変化に対する対応</b>			
<p>我が国の食料自給率は年々減少し、現在40%弱で先進12カ国中最下位にある。農業後継者や農業技術者を養成し、食料生産を増加させ、食料自給率を向上させる事は極めて重要な課題である。また、近年、国民の食品や食料の安全に対する意識は高く、食品加工・流通・バイオテクノロジーなどに関連した農学教育・研究の重要性が増している。人のメタボリックシンドロームや高齢化も食品と健康に関する教育・研究の重要性を増加させている。さらに、地球の温暖化は益々深刻化しており、環境や農・水産物資源への対応が農学教育・研究に求められている。鳥や豚のインフルエンザやBSEを含めた人獣共通感染症に関する教育・研究の要請も年々強くなっている。以上のような社会的ニーズの変化に対応できる新たな教育組織が必要である。</p>			
<b>2. 施政に対する対応</b>			
<p>中央教育審議会（2005年4月）では、高等教育の将来像として「各大学が期待される役割・機能を十分に踏まえた教育・研究を展開すること、高度の専門職業人養成、幅広い職業人養成、社会貢献機能などにおいて、各大学が個性・特色を出すこと」を挙げている。しかし、現在の農学部はゼネラリストの養成を志向しており、専門職業人の養成に対応した学科編成になっていない。また、中央教育審議会大学教育部会（2006年12月：第9回）で論議された学士課程教育の現状と課題においては、「学士教育のアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー及びディプロマポリシーの明確化」が重要事項として挙げられているが、現在の幾つかの学科では教育や就職分野が異なる複数講座で構成されているため、それらへの対応が難しい状況にある。</p>			
<b>3. 地域社会に対する対応</b>			
<p>宮崎県は農業が主要産業であり、家畜をはじめ多くの農産物の生産高が全国の上位にある。これら県内農業に係る産・官が農学部を期待する所は大きく、共同研究の依頼やアドバイザーの依頼など益々増加傾向にある。しかし現在、それらの依頼や要望に応えられる学科編成になっていない。</p>			
<b>4. 環境問題の変化に対する対応</b>			
<p>平成12年の改組当時の環境対策の焦点は、ダイオキシン特別措置法の実施、自動車排気ガスの規制実施、オゾン層保護のためのフロンガスの回収などであった。また、これに加えて、環境ホルモン、化学物質、廃棄ゴミなどの諸問題や河川、海洋の汚染などが注目されていた。しかし、近年、環境への取り組み方が、それぞれ地域における生態系の健全性の維持・回復に向けて、大きく変遷したと言える。特に、地球温暖化、リサイクル、海洋汚染防止、森林・緑地・河川・湖沼の保全などが重要なキーワードとして挙げられており、これらの諸課題に対処するためには、新たな組織を再構築し、それぞれの学科が、それぞれに直面する環境問題に対応しなければならない。</p>			
<b>5. 現在の5学科制での諸課題への対応</b>			
<p>現在の学科ではゼネラリスト養成を目指した教育の枠組みで編成されていたため、複数の異分野の講座が一つの学科に混在しており（例えば環境と言うキーワードで、水産科学講座、森林科学講座、草地環境科学講座が一緒になって一つの生物環境学科を構成している）、学生は入学後、2年次の後期にそれぞれのコース（講座）に振り分けられていた。この状況では学科のアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー及びディプロマポリシーの明確化ができなく入り口と出口が不透明であった。また、そのような学科の名称（地域農業システム学科や生物環境科学科など）からは就職先や教育内容を推測する事が難しく受験生や社会に対して不利益を生じることが外部から指摘された。さらに、異分野講座の複合からなる学科編成では専門的教育内容の充実が図れず、専門性の高い技術者を輩出できない状況にある。これらの諸課題へ対応する必要は大きい。</p>			
<b>○応用生物科学科設置の必要性</b>			
<p>農学教育の中で、近年、バイオサイエンス分野の最先端技術を用いた動植物や微生物の機能解明と活用、食品の機能と利用法及び安全性についての教育・研究へのニーズが高くなっている。これらのニーズに応える教育・研究組織として、新たな応用生物科学科が必要である。応用生物と言う学科の名称は、企業などに受け入れられ易い名称であることから名称変更はしないが、上記の社会的ニーズに応えるために、新たに「バイオサイエンス」などの新科目をカリキュラムに加えると同時に、必修科目の単位を従前の47単位から65単位に増やすなど、より専門性を強化して、技術者の養成に力を入れる。また、本学科は農畜水産物の保存、加工及び嗜好性を含む付加価値の付与、及び未だ利用されていない生物資源を有効利用するための技術開発、加工食品や医薬品の開発、植物生産を促進するための土壌生態学的機能の解明など、人材育成を含めて地域産業に対し多面的な効果をもたらしており、今後さらにその役割を発展させる上で必要な学科である。</p>			

## II. 教育課程編成の考え方及び特色

応用生物科学科のアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー及びディプロマポリシーを明確に特徴付けることで、受験生や社会に対する学科の教育内容の透明性が増す。また、学生の希望や社会の情勢やニーズを十分に考慮しながら、他機関との連携なども模索することで専門性の充実と多様化を計り、進路指導の改善ができる。

カリキュラムポリシー（南九州を中心とする地域社会、あるいは地球規模で社会が直面すると予想される生命・食料・環境に関連した諸問題を解決する能力を備えた技術者を育成するために、生物機能及び食品機能の科学的な理解とその活用、バイオテクノロジーによる社会貢献、農業生産環境の保全と食品の安全確保、技術者倫理に関する教育を行う。）に基づき、カリキュラムの構成として、低学年次においては、「宮崎大学共通教育科目」と並列して「専門科目」の基礎となる生物学、化学、数学、物理学などを含む「学部共通科目」を履修させ、各学科の専門教育の導入に必要な「専門基盤科目」を設け履修させる。中・高学年次では「専門科目」が主となり、フィールドにおける体験や実験実習を重視した教育を実施する。

また、他学科と連携した専門教育を実施することで、より広範な専門知識を修得する。

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
「宮崎大学共通教育科目」 必修科目 10 単位 「大学教育基礎科目」の＜初修外国語＞の選択科目から 4 単位 ＜保健体育科目＞の選択科目から 2 単位 「主題教養科目」の選択科目から 14 単位 「選択教養科目」の選択科目から 8 単位  「学部共通科目」 必修科目 8 単位 選択科目から 4 単位以上  「応用生物科学科」 必修科目 57 単位 「専門科目」の選択科目から 21 単位以上  従って卒業要件単位数は、 「宮崎大学共通教育科目」 38 単位 「学部共通科目」 12 単位以上 「応用生物科学科」 78 単位以上、合計 128 単位以上とする。 (履修科目の単位の上限：50 単位 (年間))	1 学年の学期区分	2 期
	1 学年の授業期間	15 週
	1 時限の授業時間	90 分

## 教育課程等の概要(事前伺い)

(農学部海洋生物環境学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
宮崎大学 基礎科目	日本語コミュニケーション	1前	2			○			1						
	情報科学入門	1前	2			○			1	4		1			
	<英語>														
	英語A1	1前	1				○								
	英語A2	1後	1				○								
	<コミュニケーション英語>														
	コミュニケーション英語Ac1	1前	1				○								
	コミュニケーション英語Ac2	1後	1				○								
	<初修外国語>														
	独語A1	1前		2			○								
	独語A2	1後		2			○								
	仏語A1	1前		2			○								
	仏語A2	1後		2			○								
	中国語A1	1前		2			○								
	中国語A2	1後		2			○								
	<保健体育科目>														
	健康スポーツ科学I														
	健康科学コース	1前		1			○								
	スポーツ科学コース	1前		1			○								
	生涯スポーツコース	1前		1			○								
健康スポーツ科学II															
健康科学コース	1後		1			○									
スポーツ科学コース	1後		1			○									
生涯スポーツコース	1後		1			○									
小計(18科目)		—	8	18	0	—	—	—	2	4	0	1	0	0	—
宮崎大学 共通教育科目	<現代の社会と倫理>														
	環境を考える	1前	2			○									
	人間と倫理I	1後		2		○									
	人間と倫理II	1後		2		○									
	言語と倫理	1後		2		○									
	人間の倫理と哲学	1後		2		○									
	医療倫理史	1後		2		○									
	<人間と文化>														
	西洋の哲学	1前		2		○									
	西洋の宗教	1前		2		○									
	人間の心と行動	1前		2		○									
	言語と文化	1前		2		○									
	日本の言語	1前		2		○									
	子どもとおとな	1前		2		○									
	日本の文学	1後		2		○									
	南アフリカ概論	1後		2		○									
	美術と文化	1後		2		○									
	音楽と人間	1後		2		○									
	暮らしを見つめる	1後		2		○									
	<現代社会の課題>														
風土・地域と人間	1前		2		○										
現代社会と歴史	1前		2		○										
現代社会と家族	1前		2		○										
現代社会と子供・青年	1前		2		○										
現代社会と政治	1後		2		○										
現代社会と法	1後		2		○										
現代社会と経済	1後		2		○										
<自然と生命>															
科学史	1前		2		○										
数学の考え方	1前		2		○										
物理科学	1前		2		○										
物質の科学	1前		2		○										
生物科学	1後		2		○										
宇宙・地球科学	1後		2		○										
小計(30科目)		—	2	58	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	—



科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
宮崎大学 共通教育 科目	<文化・社会系>																	
	宮崎県の経済と地域の活性化	2前		2		○												
	日本国憲法	2前		2		○												
	西洋史の諸問題	2前		2		○												
	現代社会と基礎理論	2前		2		○												
	魚・家畜・草の文化論	2前		2		○						1						
	産業と教育	2前		2		○												
	現代社会を読み解く	2前		2		○												
	保健医療社会学	2前		2		○												
	子どもと本	2後		2		○												
	近代小説を読む	2後		2		○												
	文学史	2後		2		○												
	比較高等教育論入門	2後		2		○												
	科学の社会学	2後		2		○												
	<科学・技術系>																	
	図形の科学 I	2前		2		○												
	水を主題とする一般化学	2前		2		○												
	統計入門	2前		2		○												
	原子と原子核入門	2前		2		○												
	大気・海洋の流れ・波動	2前		2		○												
	音・光で考える物理学入門	2前		2		○												
	科学技術と私たちの生活	2前		2		○												
	分析と環境	2前		2		○												
	化学入門ー電子のいたずらー	2前		2		○												
	宮崎の地質と自然景観	2前		2		○												
	微分積分学	2前		2		○												
	熱と流体の物理学	2前		2		○												
	運動の法則	2後		2		○												
	化学と社会との関わり	2後		2		○												
	ものの形と強さの科学	2後		2		○												
	統計学入門	2後		2		○												
	産学連携と知的財産	1後		2		○												
	光学の基礎	2後		2		○												
	<生命科学系>																	
	光と植物	2前		2		○												
	遺伝子操作入門	2前		2		○												
	遺伝子とゲノム	2前		2		○												
	感覚と神経	2前		2		○												
	動物の行動と進化	2前		2		○												
	医学実験動物学	2前		2		○												
	染色体の行動と遺伝	2後		2		○												
	生命と病気	2後		2		○												
	放射線と病気	2後		2		○												
	<複合・学際系>																	
	日本の自然と災害	2前		2		○												
	フィールド体験講座	2前		2		○												
	異文化交流体験学習	1前		2		○												
フィールド体験学習指導講座	2前		2		○						1							
分子生態学入門	2後		2		○													
食文化論	2後		2		○													
宮崎の歴史と文化	2後		2		○													
<生涯学習系>																		
生涯スポーツ実践 I	2前		1			○												
生涯スポーツ実践 II	2前		1			○												
ヘルスイエンス～予防医学へのいざない～	2前		2		○													
生涯学習論	2前		2		○													
心と体の臨床医学概論	2前		2		○													
生涯スポーツ実践 III	2後		1			○												
生涯スポーツ実践 IV	2後		1			○												
宮崎を学ぶ	2後		2		○													
ライフデザイン・キャリアデザイン入門	1後		2		○													
<外国語系>																		
選択英語 I	2前		2		○													
選択英語 II	2前		2		○													

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
宮崎大学 共通教育科目	選 択 教 養 科 目	選択英語Ⅲ	2前	2		○										
		選択英語Ⅳ	2前	2		○										
		選択ドイツ語Ⅰ	2前	2		○										
		選択フランス語Ⅰ	2前	2		○										
		選択中国語Ⅰ	2前	2		○										
		医療英語 (ENP B I)	2前	2		○										
		選択英語Ⅴ	2後	2		○										
		選択英語Ⅵ	2後	2		○										
		選択英語Ⅶ	2後	2		○										
		選択英語Ⅷ	2後	2		○										
		選択ドイツ語Ⅱ	2後	2		○										
		選択フランス語Ⅱ	2後	2		○										
		選択中国語Ⅱ	2後	2		○										
	<放送大学開講科目>															
		中国語Ⅰ	2前・後	2		○										メイト
		中国語Ⅱ	2前・後	2		○										メイト
		中国語Ⅲ	2前・後	2		○										メイト
		中国語Ⅳ	2前・後	2		○										メイト
		ロシア語Ⅰ	2前・後	2		○										メイト
		ロシア語Ⅱ	2前・後	2		○										メイト
	スペイン語Ⅰ	2前・後	2		○										メイト	
	スペイン語Ⅱ	2前・後	2		○										メイト	
	小計(79科目)	—	0	154	0	—			1	1	0	0	0	0	—	
	日 本 語 事 情 科 目	日本語Ⅰ	1・2・3・4前	1		○										
日本語Ⅱ		1・2・3・4後	1		○											
日本語Ⅲ		1・2・3・4前	1		○											
日本語Ⅳ		1・2・3・4後	1		○											
日本事情Ⅰ		1・2・3・4前	2		○											
日本事情Ⅱ		1・2・3・4後	2		○											
日本事情Ⅲ		1・2・3・4前	2		○											
日本事情Ⅳ		1・2・3・4後	2		○											
日本事情Ⅴ		1・2・3・4前	2		○											
日本事情Ⅵ		1・2・3・4後	2		○											
小計(12科目)	—	0	20	0	—				0	0	0	0	0	0	—	
	計(139科目)	—	10	250	0	—			3	5	0	1	0	0	—	
学部 共通 科目	基礎植物学	1前	2		○										オムニバス	
	基礎動物学	1前	2		○				2			1			オムニバス	
	基礎化学	1前	2		○				1	1					オムニバス	
	基礎数学	1前	2		○										オムニバス	
	基礎物理学	1後	2		○										オムニバス	
	基礎統計学	1後	2		○				1						オムニバス	
	基礎生態学	1後	2		○				3						オムニバス	
	基礎微生物学	1後	2		○				1	2					オムニバス	
	基礎遺伝学	1前	2		○										オムニバス	
	基礎環境資源経済学	1後	2		○										オムニバス	
	小計(10科目)	—	8	12	0	—			7	2	0	1	0	0	—	
海洋 生物 環境 学科	専 門 基 盤 科 目	行動生態学	1後	2		○			1	1						
		海洋生物分類学	1前	2		○			1			1				
		海の生物生産体験講座	1後	2				○		1						集中
		海洋生物環境学概論	1前	2		○			8	2		1				オムニバス
		海洋生物環境学実習	1前	1				○	8	2		1				集中・オムニバス
		入門セミナー	3後	2		○										集中・オムニバス
		科学表現学	4前	2		○										集中
	小計(7科目)	—	11	2	0	—			8	2	0	1	0	0	—	
専 門 科 目	水産化学実験Ⅰ	1前	1				○		2	1						
	水生生物解剖分類学実験	1前	1				○		1			1				
	基礎水域化学	1前	2		○				2	1						
	水域生物化学	2前	2		○				1							
	水産化学	2後	2		○				1							
	水域資源生態学	2後	2		○				1							
	貝類学	2前	2		○							1				
水域生物生理学	2前	2		○				1								
環境微生物学	2前	2		○					1							
魚類生理学	2後	2		○				1								

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
海洋生物環境学科	魚類学	2前	2			○			1									
	藻類分類学	2後	2			○			1							兼1	集中	
	海洋生物生産学	2後		2		○				1						兼1		
	水産化学実験Ⅱ	2後	1					○	2	1								
	水族生理学実験	2後	1					○	1	1								
	マリンダイビング実習	2前		1				○	1	1							兼1	集中
	乗船実習	2前		1				○	1	1							兼1	集中
	水産資源化学	3前	2			○			1									
	海洋生物遺伝学	3後		2		○				1							兼1	
	水産食品栄養学	3前	2			○			1									
	マリンバイオテクノロジー	3後		2		○				1								
	水産飼料学	3前		2		○			1									
	水域資源保全学	3前		2		○			1									
	水生生物生体防御学	3前	2			○			1									
	魚病学	3後		2		○			1									
	水族病原微生物学	3後		2		○					1							
	水産増殖学	3後	2			○			1									
	深海環境学	3後		2		○			1									
	浅海環境学	3前	2			○			1									
	魚類資源学概論	3前	2			○			1								兼1	集中
	水産計画経済学	3後	2			○			1								兼1	集中
	水産法規	3後	2			○			1								兼1	集中
	海洋微生物学実験	3前	1					○	1	1								
	水産遺伝子工学実験	3後	1					○		2			1					
	水族生産学実習	3前	1					○	8	2			1					集中
	海洋生物学実習	3前	1					○	1				1					集中
	水族館学	3後		2		○			2								兼1	集中
	水産科教育法	3後		4		○				1								
	専門英語	3後・4後	2					○	8	2			1					
	卒業論文	3～4通	6					○	8	2			1					
	森林生態学	2前		2		○												
	水文・気象学	2前		2		○												
	植物バイオテクノロジー	2前		2		○												
	公衆衛生学	3前		2		○												
	水産食品製造学	3前		2		○												
	食品衛生学	3前		2		○												
	昆虫生態学	3前		2		○												
	遺伝子工学	3後		2		○												
	無機化学	2後		2		○												
	分析化学	2後		2		○												
	生物化学Ⅰ	2後		2		○												
	食品化学	2前		2		○												
	組織学	2前		2		○												
	小計 (53科目)		-	48	54	0			-	8	2	0	1	0	兼1		-	
	合計 (209科目)		-	77	318	0			-	8	2	0	1	0	兼1		-	

学位又は称号	学士（農学）	学位又は学科の分野	農学関係
設置の趣旨・必要性			
<b>I. 設置の趣旨・必要性</b>			
<b>設置の趣旨：</b>			
<p>国立大学法人宮崎大学農学部は、「柔軟に幅広く農学専門分野を身につけさせ、主体性と創造性に富み、個性豊かで、国際的にも通用する人材（いわゆるゼネラリスト）」の育成を目指して教育を行ってきた。しかし、平成12年の改組以来、我が国の農業、あるいは大学の農学教育が担う役割は急激に変化しており、これまでより農業の専門性の高い人材育成を要望している。そのため、現在の農学部の学科組織では、本学理念の「変動する時代及び社会の多様な要請に応え得る人材の育成」や農学部の教育理念である「地域に根ざし世界の食料・環境問題の克服を目指す」の遂行が難しい状況になっている。そこで、本学農学部は、現5学科制を廃止し、近年の様々な課題（必要性）への対応を考慮した新たな6学科を設置することで、「広い視野で物事を考える総合的判断力や問題解決能力を涵養しつつ、社会の要請に応えるための高い専門性と技術を有した人材」を育成し、国内外の農業・食料・環境及び福祉等の問題解決に貢献する。専門性の高い技術者の養成を行うためには各学科単独での専門教育のみでは不可能であり、農学部全体で取り組まなければならない。結果的には、新6学科の中で4学科は名称変更を伴う改組とし、応用生物科学科と獣医学科の2学科については、学科の趣旨・目的・学生の入り口と出口などに即した名称になっており、既に技術者養成を指向していることや、地域の企業等や受験生・卒業生から認知されていることから、名称を変更することは、むしろ就職活動や学生募集にデメリットであると判断し、名称を変更しないこととした。しかし、応用生物科学科では今回の改組により、組織的には2つの講座「生物機能科学講座」と「食品機能化学講座」を統合し、従来の講座制を廃止した。また、カリキュラムでは、近年のバイオサイエンス分野や、食品の機能や安全性についての教育・研究ニーズに応えるために、新たに「バイオサイエンス」などの新科目を設けると同時に、必修科目の単位を47単位から65単位に増やすなど、より専門性を強化して、技術者の養成にさらに力を入れることとした。すなわち、講座制を廃止し、他学科との連携教育システムを構築し、必修科目を大幅に整備するなど、従前に比較して大きな改善を行った。また、獣医学科では、産業動物獣医師や肉衛生関連獣医師養成のニーズに応えるために、畜産草地科学科等と連携して産業動物の教育に力を入れることとし、カリキュラムの大幅な改善を行った。さらに、今後予定している学科への教員配置なども今回の改組に沿ったものになるため、応用生物科学科と獣医学科も新たな学科としてスタートする必要がある。</p>			
<b>設置の必要性：</b>			
<b>1. 社会的ニーズの変化に対する対応</b>			
<p>我が国の食料自給率は年々減少し、現在40%弱で先進12カ国中最下位にある。農業後継者や農業技術者を養成し、食料生産を増加させ、食料自給率を向上させる事は極めて重要な課題である。また、近年、国民の食品や食料の安全に対する意識は高く、食品加工・流通・バイオテクノロジーなどに関連した農学教育・研究の重要性が増している。人のメタボリックシンドロームや高齢化も食品と健康に関する教育・研究の重要性を増加させている。さらに、地球の温暖化は益々深刻化しており、環境や農・水産物資源への対応が農学教育・研究に求められている。鳥や豚のインフルエンザやBSEを含めた人獣共通感染症に関する教育・研究の要請も年々強くなっている。以上のような社会的ニーズの変化に対応できる新たな教育組織が必要である。</p>			
<b>2. 施政に対する対応</b>			
<p>中央教育審議会（2005年4月）では、高等教育の将来像として「各大学が期待される役割・機能を十分に踏まえた教育・研究を展開すること、高度の専門職業人養成、幅広い職業人養成、社会貢献機能などにおいて、各大学が個性・特色を出すこと」を挙げている。しかし、現在の農学部はゼネラリストの養成を志向しており、専門職業人の養成に対応した学科編成になっていない。また、中央教育審議会大学教育部会（2006年12月：第9回）で論議された学士課程教育の現状と課題においては、「学士教育のアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー及びディプロマポリシーの明確化」が重要事項として挙げられているが、現在の幾つかの学科では教育や就職分野が異なる複数講座で構成されているため、それらへの対応が難しい状況にある。</p>			
<b>3. 地域社会に対する対応</b>			
<p>宮崎県は農業が主要産業であり、家畜をはじめ多くの農産物の生産高が全国の上位にある。これら県内農業に関係する産・官が農学部を期待する所は大きく、共同研究の依頼やアドバイザーの依頼など益々増加傾向にある。しかし現在、それらの依頼や要望に応えられる学科編成になっていない。</p>			
<b>4. 環境問題の変化に対する対応</b>			
<p>平成12年の改組当時の環境対策の焦点は、ダイオキシン特別措置法の実施、自動車排気ガスの規制実施、オゾン層保護のためのフロンガスの回収などであった。また、これに加えて、環境ホルモン、化学物質、廃棄ゴミなどの諸問題や河川、海洋の汚染などが注目されていた。しかし、近年、環境への取り組み方が、それぞれ地域における生態系の健全性の維持・回復に向けて、大きく変遷したと言える。特に、地球温暖化、リサイクル、海洋汚染防止、森林・緑地・河川・湖沼の保全などが重要なキーワードとして挙げられており、これらの諸課題に対処するためには、新たな組織を再構築し、それぞれの学科が、それぞれに直面する環境問題に対応しなければならない。</p>			
<b>5. 現在の5学科制での諸課題への対応</b>			
<p>現在の学科ではゼネラリスト養成を目指した教育の枠組みで編成されていたため、複数の異分野の講座が一つの学科に混在しており（例えば環境と言うキーワードで、水産科学講座、森林科学講座、草地環境科学講座が一緒になって一つの生物環境学科を構成している）、学生は入学後、2年次の後期にそれぞれのコース（講座）に振り分けられていた。この状況では学科のアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー及びディプロマポリシーの明確化ができなく入り口と出口が不透明であった。また、そのような学科の名称（地域農業システム学科や生物環境科学科など）からは就職先や教育内容を推測する事が難しく受験生や社会に対して不利益を生じることが外部から指摘された。さらに、異分野講座の複合からなる学科編成では専門的教育内容の充実が図れず、専門性の高い技術者を輩出できない状況にある。これらの諸課題へ対応する必要は大きい。</p>			
<b>○海洋生物環境学科設置の必要性</b>			
<p>農学教育の中で、生物資源の宝庫で地球環境の維持に大きな役割を果たしている海洋に関して、生物生産及び水域環境の保全・管理を理解し、環境を重視した科学教育を行う必要がある。具体的には、水域生物の生理・遺伝・分類・生態・高度利用に関する教育、生物生産の阻害要因である環境変化・疾病等の対策と予防に関する教育を海洋生物環境学科が担う。また、水域生物の生産と環境保全を理解するために、フィールドにおける経験を重視した教育を行い、水産資源の持続的生産と水圏環境の保全に関する知識を基礎に、水域環境に関わる諸問題を柔軟に分析・対応できる人材を養成する学科である。</p>			

## II. 教育課程編成の考え方及び特色

海洋生物環境学科のアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー及びディプロマポリシーを明確に特徴付けることで、受験生や社会に対しての学科の教育内容の透明性が増す。また、学生の希望や社会の情勢やニーズを十分に考慮しながら、他機関との連携なども模索することで専門性の充実と多様化を計り、進路指導の改善ができる。

カリキュラムポリシー（海洋を始めとした水域における生物資源の生産・利用・管理及び環境の保全を理解するため、水域生物の生理・遺伝・分類、資源利用科学、水族の疾病、水域環境の保全に関する教育を行い、フィールド体験や実験実習を重視した教育を行う。）に基づき、カリキュラムの構成として、低学年次においては、「宮崎大学共通教育科目」と並列して「専門科目」の基礎となる生物学、化学、数学、物理学などを含む「学部共通科目」を履修させ、各学科の専門教育の導入に必要な「専門基盤科目」を設け履修させる。中・高学年次では「専門科目」が主となり、フィールドにおける体験や実験実習を重視した教育を実施する。

また、他学科と連携した専門教育を実施することで、より広範な専門知識を修得する。

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
「宮崎大学共通教育科目」 必修科目 10 単位 「大学教育基礎科目」の<初修外国語>の選択科目から 4 単位 <保健体育科目>の選択科目から 2 単位 「主題教養科目」の選択科目から 1 4 単位 「選択教養科目」の選択科目から 8 単位	1 学年の学期区分	2 期
	1 学年の授業期間	1 5 週
「学部共通科目」 必修科目 8 単位 「海洋生物環境学科」 必修科目 5 9 単位 「学部共通科目」と「海洋生物環境学科」（専門基盤科目・専門科目） の選択科目から 2 3 単位以上  従って卒業要件単位数は、 「宮崎大学共通教育科目」 3 8 単位 「学部共通科目」「海洋生物環境学科」 9 0 単位以上 の合計 1 2 8 単位以上とする。 （履修科目の単位の上限：5 0 単位（年間））	1 時限の授業時間	9 0 分

教育課程等の概要(事前伺い)																	
(農学部畜産草地科学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
宮崎大学 基礎科目	日本語コミュニケーション	1前	2			○			1								
	情報科学入門	1前	2			○			1	4		1					
	<英語>																
	英語A1	1前	1				○										
	英語A2	1後	1				○										
	<コミュニケーション英語>																
	コミュニケーション英語Ac1	1前	1				○										
	コミュニケーション英語Ac2	1後	1				○										
	<初修外国語>																
	独語A1	1前		2			○										
	独語A2	1後		2			○										
	仏語A1	1前		2			○										
	仏語A2	1後		2			○										
	中国語A1	1前		2			○										
	中国語A2	1後		2			○										
	<保健体育科目>																
	健康スポーツ科学I																
	健康科学コース	1前		1			○										
	スポーツ科学コース	1前		1			○										
	生涯スポーツコース	1前		1			○										
健康スポーツ科学II																	
健康科学コース	1後		1			○											
スポーツ科学コース	1後		1			○											
生涯スポーツコース	1後		1			○											
小計(18科目)		—	8	18	0	—	—	—	2	4	0	1	0	0	0	—	
宮崎大学 共通教育科目	<現代の社会と倫理>																
	環境を考える	1前	2			○											
	人間と倫理I	1後		2		○											
	人間と倫理II	1後		2		○											
	言語と倫理	1後		2		○											
	人間の倫理と哲学	1後		2		○											
	医療倫理史	1後		2		○											
	<人間と文化>																
	西洋の哲学	1前		2		○											
	西洋の宗教	1前		2		○											
	人間の心と行動	1前		2		○											
	言語と文化	1前		2		○											
	日本の言語	1前		2		○											
	子どもとおとな	1前		2		○											
	日本の文学	1後		2		○											
	南アフリカ概論	1後		2		○											
	美術と文化	1後		2		○											
	音楽と人間	1後		2		○											
	暮らしを見つめる	1後		2		○											
	<現代社会の課題>																
風土・地域と人間	1前		2		○												
現代社会と歴史	1前		2		○												
現代社会と家族	1前		2		○												
現代社会と子供・青年	1前		2		○												
現代社会と政治	1後		2		○												
現代社会と法	1後		2		○												
現代社会と経済	1後		2		○												
<自然と生命>																	
科学史	1前		2		○												
数学の考え方	1前		2		○												
物理科学	1前		2		○												
物質の科学	1前		2		○												
生物科学	1後		2		○												
宇宙・地球科学	1後		2		○												
小計(30科目)		—	2	58	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考					
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手						
宮崎大学 共通教育 科目	<文化・社会系>																		
	宮崎県の経済と地域の活性化	2前		2		○													
	日本国憲法	2前		2		○													
	西洋史の諸問題	2前		2		○													
	現代社会と基礎理論	2前		2		○													
	魚・家畜・草の文化論	2前		2		○													
	産業と教育	2前		2		○													
	現代社会を読み解く	2前		2		○													
	保健医療社会学	2前		2		○													
	子どもと本	2後		2		○													
	近代小説を読む	2後		2		○													
	文学史	2後		2		○													
	比較高等教育論入門	2後		2		○													
	科学の社会学	2後		2		○													
	<科学・技術系>																		
	凶形の科学 I	2前		2		○													
	水を主題とする一般化学	2前		2		○													
	統計入門	2前		2		○													
	原子と原子核入門	2前		2		○													
	大気・海洋の流れ・波動	2前		2		○													
	音・光で考える物理学入門	2前		2		○													
	科学技術と私たちの生活	2前		2		○													
	分析と環境	2前		2		○													
	化学入門－電子のいたずら－	2前		2		○													
	宮崎の地質と自然景観	2前		2		○													
	微分積分学	2前		2		○													
	熱と流体の物理学	2前		2		○													
	運動の法則	2後		2		○													
	化学と社会との関わり	2後		2		○													
	ものの形と強さの科学	2後		2		○													
	統計学入門	2後		2		○													
	産学連携と知的財産	1後		2		○													
	光学の基礎	2後		2		○													
	<生命科学系>																		
	光と植物	2前		2		○													
	遺伝子操作入門	2前		2		○													
	遺伝子とゲノム	2前		2		○													
	感覚と神経	2前		2		○													
	動物の行動と進化	2前		2		○													
	医学実験動物学	2前		2		○													
	染色体の行動と遺伝	2後		2		○													
	生命と病気	2後		2		○													
	放射線と病気	2後		2		○													
	<複合・学際系>																		
	日本の自然と災害	2前		2		○													
	フィールド体験講座	2前		2		○													
	異文化交流体験学習	1前		2		○													
フィールド体験学習指導講座	2前		2		○														
分子生態学入門	2後		2		○														
食文化論	2後		2		○														
宮崎の歴史と文化	2後		2		○														
<生涯学習系>																			
生涯スポーツ実践 I	2前		1			○													
生涯スポーツ実践 II	2前		1			○													
ヘルスインス～予防医学へのいざない～	2前		2		○														
生涯学習論	2前		2		○														
心と体の臨床医学概論	2前		2		○														
生涯スポーツ実践 III	2後		1			○													
生涯スポーツ実践 IV	2後		1			○													
宮崎を学ぶ	2後		2		○														
ライティング・キャリアデザイン入門	1後		2																
<外国語系>																			
選択英語 I	2前		2		○														
選択英語 II	2前		2		○														

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
宮崎大学 共通教育科目	選択英語Ⅲ	2前		2		○												
	選択英語Ⅳ	2前		2		○												
	選択ドイツ語Ⅰ	2前		2		○												
	選択フランス語Ⅰ	2前		2		○												
	選択中国語Ⅰ	2前		2		○												
	医療英語(ENP B I)	2前		2		○												
	選択英語Ⅴ	2後		2		○												
	選択英語Ⅵ	2後		2		○												
	選択英語Ⅶ	2後		2		○												
	選択英語Ⅷ	2後		2		○												
	選択ドイツ語Ⅱ	2後		2		○												
	選択フランス語Ⅱ	2後		2		○												
	選択中国語Ⅱ	2後		2		○												
	<放送大学開講科目>																	
	中国語Ⅰ	2前・後		2		○												特イ
	中国語Ⅱ	2前・後		2		○												特イ
	中国語Ⅲ	2前・後		2		○												特イ
	中国語Ⅳ	2前・後		2		○												特イ
	ロシア語Ⅰ	2前・後		2		○												特イ
	ロシア語Ⅱ	2前・後		2		○												特イ
	スペイン語Ⅰ	2前・後		2		○												特イ
	スペイン語Ⅱ	2前・後		2		○												特イ
	小計(79科目)		—	0	154	0	—			1	1	0	0	0	0	0	0	—
	日本語Ⅰ	1・2・3・4前			1		○											
	日本語Ⅱ	1・2・3・4後			1		○											
	日本語Ⅲ	1・2・3・4前			1		○											
	日本語Ⅳ	1・2・3・4後			1		○											
日本事情Ⅰ	1・2・3・4前			2		○												
日本事情Ⅱ	1・2・3・4後			2		○												
日本事情Ⅲ	1・2・3・4前			2		○												
日本事情Ⅳ	1・2・3・4後			2		○												
日本事情Ⅴ	1・2・3・4前			2		○												
日本事情Ⅵ	1・2・3・4後			2		○												
日本事情Ⅶ	1・2・3・4前			2		○												
日本事情Ⅷ	1・2・3・4後			2		○												
小計(12科目)		—	0	20	0	—			0	0	0	0	0	0	0	0	—	
計(139科目)		—	10	250	0	—			3	5	0	1	0	0	0	0	—	
学部 共通科目	基礎植物学	1前	2			○			1	3							兼1	
	基礎動物学	1前	2			○			4								オムニバス	
	基礎化学	1前	2			○				2		2					オムニバス	
	基礎数学	1前		2		○											オムニバス	
	基礎物理学	1後		2		○											オムニバス	
	基礎統計学	1後	2			○			2								オムニバス	
	基礎生態学	1後		2		○			1	1		1					オムニバス	
	基礎微生物学	1後		2		○											オムニバス	
	基礎遺伝学	1前	2			○							1				兼1	
	基礎環境資源経済学	1後		2		○											オムニバス	
小計(10科目)		—	10	10	0	—			6	5	0	4	0	0	0	0	兼1	
畜産 草地 学	畜産草地科学基礎化学	1後	2			○				1								
	畜産草地科学序説	1前	2			○			7	6		4					オムニバス	
	畜産草地科学概論	1後	2			○			7	6		4					オムニバス	
	畜産草地科学基礎実習	1前	1				○		7	6		4					集中・オムニバス	
	畜産草地科学基礎実験	2前	1				○		7	6		4					オムニバス	
	草地・草原環境保全・修復学	1前	2			○			1									
	産業動物各論	1前	2			○			1									
	生物化学II	2前		2		○				1								
	植物生理学	2前		2		○				1								
	動物生理学Ⅰ	2前		2		○			1	1								
	生命化学概論	2後		2		○			1	1								
	小計(11科目)		—	12	8	0	—			7	6	0	4	0	0	0	0	—
専 門 科 目	家畜栄養学	2前	2			○				1			1					
	牧場実習Ⅰ	2前	1						1					1			集中	
	入門セミナー	2後	1				○		7	6		4					オムニバス	
	動物育種資源学	2前		2		○							1					
	動物生殖生理学Ⅰ	2後		2		○			1									
動物行動学	2前		2		○			1										



科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
畜産 草地 地学 科学 科 目	草地システム生態学	2後	2			○			1							
	飼料作物学	2後	2			○				1						
	草地畜産論	2後		2		○			1							集中・ホムパス
	学外体験実習	2前		2				○	7	6		4				
	動物生理生化学	2後	2			○			1							
	家畜飼養環境管理学	2後	2			○			1							
	家畜飼養環境管理学実験	2前			1			○	1							
	飼料学	2後			2		○				1					
	獣害制御論	2前			2		○				1					
	家畜栄養学実験	2後			1			○					1			
	動物遺伝育種学実験	2後			1			○					1			
	土壤管理学概論	2後			2		○				1					
	環境草地学	2前	2				○			1						
	草地生産・生態学実験	2通			2			○		1		2		1		
	草類利用学実験	2後			1			○		1				1		
	専門英語	3後	2				○			7	5			4		
	動物育種学	3前	2				○			1						
	動物生殖生理学Ⅱ	3前	2				○			1						
	動物福祉学	3後			2		○			1						
	草類利用学	3前	2				○			1						
	実践畜産草地生産学	3前	2				○			7	6		4	1		集中
	牧場実習Ⅱ	3前			1			○		1				1		
	動物生理生化学実験	3前			1			○		1						
	動物生殖制御学	3前			2		○				1					
	動物生殖生理学実験	3前			1			○			1					
	畜産物科学	3前			2		○									兼1
	畜産食品科学	3後			2		○									兼1
	草類バイオマス論	3前			2		○				1					
	草地植生管理学	3後			2		○				1					
	地域環境保全論	3前			2		○				1					
	放牧生態学	3前			2		○			2						
	草地学特別講義	2前・3前			2		○									兼1 隔年開講
	草地環境科学特別講義	2後・3後			2		○									兼1 隔年開講
	卒業論文	3・4通	6					○		7	6		4			
	実験動物学各論	3後・4後			1		○				1					
	植物バイオテクノロジー	2前			2		○									兼1
	草類遺伝資源・育種学実験	2前			1			○								兼1
	森林生態学	2前			2		○				1					
	薬理学Ⅰ	2後			2		○			1	1					
	栽培学	2前			2		○				1					
	畜産食品製造学	3後			2		○			1						
	実験動物学	3前			2		○									兼1
	草類遺伝資源・育種学	3前			2		○									兼1
動物衛生疾病学	3後			2		○			1	1						
動物解剖学Ⅰ	3前			2		○				1						
動物解剖学Ⅱ	3前			2		○			1							
動物解剖学実習	3後			1			○		1	1		1				
動物生理学Ⅱ	3前			2		○			1	1						
毒性学	3後			2		○			1	1						
獣医衛生学	3後			2		○			1	1						
農業経済学	3前			2		○				1						
環境計測学	3後			2		○				1						
水文・気象学	3前			2		○				1			1			
遺伝子工学	3後			2		○			1							
実験動物学実習	3前・4前			1			○								兼2	
食品工学	4前			2		○									兼1	
同位元素利用論	4前			2		○										
有機化学	3前・4前			2		○										
無機化学	3前・4前			2		○										
食品化学	3前・4前			2		○										
食品製造学	3前・4前			2		○										
公衆衛生学	3前・4前			2		○										
栄養化学	3前・4前			2		○										
分析化学	3前・4前			2		○										
食品分析化学	3前・4前			2		○										

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
畜産 草地 科学 科	専 門 科 目	食品保藏化学	3前・4前	2		○									
		食品衛生学	3前・4前	2		○									
		水産食品製造学	3前・4前	2		○									
		生物有機化学	3前・4前	2		○									
		酵素化学	3前・4前	2		○									
		農産食品製造学	3前・4前	2		○									
	小計(77科目)	—	32	113	0	—			7	6	0	4	1	兼8	—
	合計(237科目)	—	64	381	0	—			7	6	0	4	1	兼8	—

学位又は称号	学士（農学）	学位又は学科の分野	農学関係
--------	--------	-----------	------

設置の趣旨・必要性

**I. 設置の趣旨・必要性**

**設置の趣旨：**

国立大学法人宮崎大学農学部は、「柔軟に幅広く農学専門分野を身につけさせ、主体性と創造性に富み、個性豊かで、国際的にも通用する人材（いわゆるゼネラリスト）」の育成を目指して教育を行ってきた。しかし、平成12年の改組以来、我が国の農業、あるいは大学の農学教育が担う役割は急激に変化しており、これまでより農業の専門性の高い人材育成を要望している。そのため、現在の農学部の学科組織では、本学理念の「変動する時代及び社会の多様な要請に応え得る人材の育成」や農学部の教育理念である「地域に根ざし世界の食料・環境問題の克服を目指す」の遂行が難しい状況になっている。そこで、本学農学部は、現5学科制を廃止し、近年の様々な課題（必要性）への対応を考慮した新たな6学科を設置することで、「広い視野で物事を考える総合的判断力や問題解決能力を涵養しつつ、社会の要請に応えるための高い専門性と技術を有した人材」を育成し、国内外の農業・食料・環境及び福祉等の問題解決に貢献する。専門性の高い技術者の養成を行うためには各学科単独での専門教育のみでは不可能であり、農学部全体で取り組まなければならない。結果的には、新6学科の中で4学科は名称変更を伴う改組とし、応用生物科学科と獣医科学科の2学科については、学科の趣旨・目的・学生の入り口と出口などに即した名称になっており、既に技術者養成を指向していることや、地域の企業等や受験生・卒業生から認知されていることから、名称を変更することは、むしろ就職活動や学生募集にデメリットであると判断し、名称を変更しないこととした。しかし、応用生物科学科では今回の改組により、組織的には2つの講座「生物機能科学講座」と「食品機能化学講座」を統合し、従来の講座制を廃止した。また、カリキュラムでは、近年のバイオサイエンス分野や、食品の機能や安全性についての教育・研究ニーズに応えるために、新たに「バイオサイエンス」などの新科目を設けると同時に、必修科目の単位を47単位から65単位に増やすなど、より専門性を強化して、技術者の養成にさらに力を入れることとした。すなわち、講座制を廃止し、他学科との連携教育システムを構築し、必修科目を大幅に整備するなど、従前に比較して大きな改善を行った。また、獣医科学科では、産業動物獣医師や食肉衛生関連獣医師養成のニーズに応えるために、畜産草地科学科等と連携して産業動物の教育に力を入れることとし、カリキュラムの大幅な改善を行った。さらに、今後予定している学科への教員配置なども今回の改組に沿ったものになるため、応用生物科学科と獣医科学科も新たな学科としてスタートする必要がある。

**設置の必要性：**

**1. 社会的ニーズの変化に対する対応**

我が国の食料自給率は年々減少し、現在40%弱で先進12カ国中最下位にある。農業後継者や農業技術者を養成し、食料生産を増加させ、食料自給率を向上させる事は極めて重要な課題である。また、近年、国民の食品や食料の安全に対する意識は高く、食品加工・流通・バイオテクノロジーなどに関連した農学教育・研究の重要性が増している。人のメタボリックシンドロームや高齢化も食品と健康に関する教育・研究の重要性を増加させている。さらに、地球の温暖化は益々深刻化しており、環境や農・水産物資源への対応が農学教育・研究に求められている。鳥や豚のインフルエンザやBSEを含めた人獣共通感染症に関する教育・研究の要請も年々強くなっている。以上のような社会的ニーズの変化に対応できる新たな教育組織が必要である。

**2. 施政に対する対応**

中央教育審議会（2005年4月）では、高等教育の将来像として「各大学が期待される役割・機能を十分に踏まえた教育・研究を展開すること、高度の専門職業人養成、幅広い職業人養成、社会貢献機能などにおいて、各大学が個性・特色を出すこと」を挙げている。しかし、現在の農学部はゼネラリストの養成を志向しており、専門職業人の養成に対応した学科編成になっていない。また、中央教育審議会大学教育部会（2006年12月：第9回）で論議された学士課程教育の現状と課題においては、「学士教育のアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー及びディプロマポリシーの明確化」が重要事項として挙げられているが、現在の幾つかの学科では教育や就職分野が異なる複数講座で構成されているため、それらへの対応が難しい状況にある。

**3. 地域社会に対する対応**

宮崎県は農業が主要産業であり、家畜をはじめ多くの農産物の生産高が全国の上位にある。これら県内農業に係る産・官が農学部を期待する所は大きく、共同研究の依頼やアドバイザーの依頼など益々増加傾向にある。しかし現在、それらの依頼や要望に応えられる学科編成になっていない。

**4. 環境問題の変化に対する対応**

平成12年の改組当時の環境対策の焦点は、ダイオキシン特別措置法の実施、自動車排気ガスの規制実施、オゾン層保護のためのフロンガスの回収などであった。また、これに加えて、環境ホルモン、化学物質、廃棄物などの諸問題や河川、海洋の汚染などが注目されていた。しかし、近年、環境への取り組み方が、それぞれ地域における生態系の健全性の維持・回復に向けて、大きく変遷したと言える。特に、地球温暖化、リサイクル、海洋汚染防止、森林・緑地・河川・湖沼の保全などが重要なキーワードとして挙げられており、これらの諸課題に対処するためには、新たな組織を再構築し、それぞれの学科が、それぞれに直面する環境問題に対応しなければならない。

**5. 現在の5学科制での諸課題への対応**

現在の学科ではゼネラリスト養成を目指した教育の枠組みで編成されていたため、複数の異分野の講座が一つの学科に混在しており（例えば環境と言うキーワードで、水産科学講座、森林科学講座、草地環境科学講座が一緒になって一つの生物環境学科を構成している）、学生は入学後、2年次の後期にそれぞれのコース（講座）に振り分けられていた。この状況では学科のアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー及びディプロマポリシーの明確化ができなく入り口と出口が不透明であった。また、そのような学科の名称（地域農業システム学科や生物環境科学科など）からは就職先や教育内容を推測する事が難しく受験生や社会に対して不利益を生じることが外部から指摘された。さらに、異分野講座の複合からなる学科編成では専門的教育内容の充実が図れず、専門性の高い技術者を輩出できない状況にある。これらの諸課題へ対応する必要は大きい。

**○畜産草地科学科設置の必要性**

農学教育の中で、自給飼料に基盤をおいた安心・安全な畜産物の供給という極めて要求度の高い課題に応えるため、肉用家畜の計画交配・生産から肥育に係わる育種・繁殖・栄養・管理・生理学を体系的に教授する教育組織として必要である。一方、我が国の飼料自給率の低迷に関連し、栄養価や収量の高い飼料生産に欠かすことのできない暖地型飼料植物の栽培・利用、草地の生態と管理は、安定した家畜生産を保障する重要な基盤であり、家畜生産と草地生産一体となった教育・研究を行う組織としても畜産草地科学科が必要である。草地学と畜産学の結合は、国の試験研究のみならず、学協会における最近の動向と軌を一にするものであり、資源循環・低投入持続型畜産を通して、食料・飼料自給率の向上や自然・社会環境との調和を計り、国内外の「食料・農業・農村」をめぐる畜産面での諸課題を解決するために必要である。特に、南九州地域は、温暖な気候に適した肉用牛、豚、ブロイラー等、我が国の動物タンパク資源の重要な供給基地（全国1位の肉用家畜生産高）となっており、畜産業への学術的貢献、実践型教育による技術指導者や畜産後継者の育成といった点においても本学科は重要や役割を担う。

**Ⅱ. 教育課程編成の考え方及び特色**

畜産草地科学科のアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー及びディプロマポリシーを明確に特徴付けることで、受験生や社会に対する学科の教育内容の透明性が増す。また、学生の希望や社会の情勢やニーズを十分に考慮しながら、他機関との連携なども模索することで専門性の充実と多様化を計り、進路指導の改善ができる。

カリキュラムポリシー（土・植物・家畜の物質循環系を活かして、高品質の畜産物を持続的・安定的に生産する体系を構築するために、肉用家畜と暖地型飼料植物を中心に、家畜・家禽の合理的生産と福祉、飼料資源の開発と利活用、草地・放牧の適正管理などに関する知識を、フィールド実体験を交えつつ効果的に修得させる。）に基づき、カリキュラムの構成として、低学年次においては、「宮崎大学共通教育科目」と並列して「専門科目」の基礎となる生物学、化学、数学、物理学などを含む「学部共通科目」を履修させ、各学科の専門教育の導入に必要な「専門基盤科目」を設け履修させる。中・高学年次では「専門科目」が主となり、フィールドにおける体験や実験実習を重視した教育を実施する。

また、他学科と連携した専門教育を実施することで、より広範な専門知識を修得する。

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
「宮崎大学共通教育科目」 必修科目 10 単位 「大学教育基礎科目」の<初修外国語>の選択科目から4単位 <保健体育科目>の選択科目から2単位 「主題教養科目」の選択科目から14単位 「選択教養科目」の選択科目から8単位  「学部共通科目」 必修科目 10 単位 選択科目から4単位以上  「畜産草地科学科」 必修科目 4 4 単位 「専門基盤科目」の選択科目から4単位以上 「専門科目」の選択科目から28単位以上  従って卒業要件単位数は、 「宮崎大学共通教育科目」 38 単位 「学部共通科目」 14 単位以上 「畜産草地科学科」 76 単位以上の合計 128 単位以上とする。 （履修科目の単位の上限：50 単位（年間））	1 学年の学期区分	2 期
	1 学年の授業期間	1 5 週
	1 時限の授業時間	9 0 分

## 教育課程等の概要(事前伺い)

(農学部獣医学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
宮崎大学 獣医学科 基礎科目	日本語コミュニケーション	1前	2			○			1									
	情報科学入門	1前	2			○			1	4		1						
	<英語>																	
	英語A 1	1前	1				○											
	英語A 2	1後	1				○											
	<コミュニケーション英語>																	
	コミュニケーション英語Ac 1	1前	1				○											
	コミュニケーション英語Ac 2	1後	1				○											
	<初修外国語>																	
	独語A 1	1前		2			○											
	独語A 2	1後		2			○											
	仏語A 1	1前		2			○											
	仏語A 2	1後		2			○											
	中国語A 1	1前		2			○											
	中国語A 2	1後		2			○											
	<保健体育科目>																	
	健康スポーツ科学I																	
	健康科学コース	1前		1			○											
	スポーツ科学コース	1前		1			○											
	生涯スポーツコース	1前		1			○											
健康スポーツ科学II																		
健康科学コース	1後		1			○												
スポーツ科学コース	1後		1			○												
生涯スポーツコース	1後		1			○												
小計(18科目)		—	8	18	0	—	—	—	2	4	0	1	0	0	0	—		
宮崎大学 共通教育 主眼科目	<現代の社会と倫理>																	
	環境を考える	1前	2			○												
	人間と倫理I	1後		2		○												
	人間と倫理II	1後		2		○												
	言語と倫理	1後		2		○												
	人間の倫理と哲学	1後		2		○												
	医療倫理史	1後		2		○												
	<人間と文化>																	
	西洋の哲学	1前		2		○												
	西洋の宗教	1前		2		○												
	人間の心と行動	1前		2		○												
	言語と文化	1前		2		○												
	日本の言語	1前		2		○												
	子どもとおとな	1前		2		○												
	日本の文学	1後		2		○												
	南アフリカ概論	1後		2		○												
	美術と文化	1後		2		○												
	音楽と人間	1後		2		○												
	暮らしを見つめる	1後		2		○												
	<現代社会の課題>																	
風土・地域と人間	1前		2		○													
現代社会と歴史	1前		2		○													
現代社会と家族	1前		2		○													
現代社会と子供・青年	1前		2		○													
現代社会と政治	1後		2		○													
現代社会と法	1後		2		○													
現代社会と経済	1後		2		○													
<自然と生命>																		
科学史	1前		2		○													
数学の考え方	1前		2		○													
物理科学	1前		2		○													
物質の科学	1前		2		○													
生物科学	1後		2		○													
宇宙・地球科学	1後		2		○													
小計(30科目)		—	2	58	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
宮崎大学 共通教育科目	＜文化・社会系＞																
	宮崎県の経済と地域の活性化	2前		2		○					1						
	日本国憲法	2前		2		○											
	西洋史の諸問題	2前		2		○											
	現代社会と基礎理論	2前		2		○											
	魚・家畜・草の文化論	2前		2		○											
	産業と教育	2前		2		○											
	現代社会を読み解く	2前		2		○											
	保健医療社会学	2前		2		○											
	子どもと本	2後		2		○											
	近代小説を読む	2後		2		○											
	文学史	2後		2		○											
	比較高等教育論入門	2後		2		○											
	科学の社会学	2後		2		○											
	＜科学・技術系＞																
	図形の科学Ⅰ	2前		2		○											
	水を主題とする一般化学	2前		2		○											
	統計入門	2前		2		○											
	原子と原子核入門	2前		2		○											
	大気・海洋の流れ・波動	2前		2		○											
	音・光で考える物理学入門	2前		2		○											
	科学技術と私たちの生活	2前		2		○											
	分析と環境	2前		2		○											
	化学入門－電子のいたずら－	2前		2		○											
	宮崎の地質と自然景観	2前		2		○											
	微分積分学	2前		2		○											
	熱と流体の物理学	2前		2		○											
	運動の法則	2後		2		○											
	化学と社会との関わり	2後		2		○											
	ものの形と強さの科学	2後		2		○											
	統計学入門	2後		2		○											
	産学連携と知的財産	1後		2		○											
	光学の基礎	2後		2		○											
	＜生命科学系＞																
	光と植物	2前		2		○											
	遺伝子操作入門	2前		2		○											
	遺伝子とゲノム	2前		2		○											
	感覚と神経	2前		2		○											
	動物の行動と進化	2前		2		○											
	医学実験動物学	2前		2		○											
	染色体の行動と遺伝	2後		2		○											
	生命と病気	2後		2		○											
	放射線と病気	2後		2		○											
	＜複合・学際系＞																
	日本の自然と災害	2前		2		○											
	フィールド体験講座	2前		2		○											
	異文化交流体験学習	1前		2		○											
	フィールド体験学習指導講座	2前		2		○						1					
	分子生態学入門	2後		2		○											
	食文化論	2後		2		○											
	宮崎の歴史と文化	2後		2		○											
	＜生涯学習系＞																
	生涯スポーツ実践Ⅰ	2前		1			○										
生涯スポーツ実践Ⅱ	2前		1			○											
ヘルスインス～予防医学へのいざない～	2前		2		○												
生涯学習論	2前		2		○												
心と体の臨床医学概論	2前		2		○												
生涯スポーツ実践Ⅲ	2後		1			○											
生涯スポーツ実践Ⅳ	2後		1			○											
宮崎を学ぶ	2後		2		○												
ライフデザイン・キャリアデザイン入門	1後		2		○												
＜外国語系＞																	
選択英語Ⅰ	2前		2		○												
選択英語Ⅱ	2前		2		○												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
宮崎大学 共通教育科目	選択英語Ⅲ	2前		2		○											
	選択英語Ⅳ	2前		2		○											
	選択ドイツ語Ⅰ	2前		2		○											
	選択フランス語Ⅰ	2前		2		○											
	選択中国語Ⅰ	2前		2		○											
	医療英語(ENP BⅠ)	2前		2		○											
	選択英語Ⅴ	2後		2		○											
	選択英語Ⅵ	2後		2		○											
	選択英語Ⅶ	2後		2		○											
	選択英語Ⅷ	2後		2		○											
	選択ドイツ語Ⅱ	2後		2		○											
	選択フランス語Ⅱ	2後		2		○											
	選択中国語Ⅱ	2後		2		○											
	<放送大学開講科目>																
	中国語Ⅰ	2前・後		2		○											ｸﾞｲ
	中国語Ⅱ	2前・後		2		○											ｸﾞｲ
	中国語Ⅲ	2前・後		2		○											ｸﾞｲ
	中国語Ⅳ	2前・後		2		○											ｸﾞｲ
	ロシア語Ⅰ	2前・後		2		○											ｸﾞｲ
	ロシア語Ⅱ	2前・後		2		○											ｸﾞｲ
スペイン語Ⅰ	2前・後		2		○											ｸﾞｲ	
スペイン語Ⅱ	2前・後		2		○											ｸﾞｲ	
小計(79科目)		—	0	154	0		—		1	1	0	0	0	0	0	—	
日本語Ⅰ	1・2・3・4前			1		○											
日本語Ⅱ	1・2・3・4後			1		○											
日本語Ⅲ	1・2・3・4前			1		○											
日本語Ⅳ	1・2・3・4後			1		○											
日本事情Ⅰ	1・2・3・4前			2		○											
日本事情Ⅱ	1・2・3・4後			2		○											
日本事情Ⅲ	1・2・3・4前			2		○											
日本事情Ⅳ	1・2・3・4後			2		○											
日本事情Ⅴ	1・2・3・4前			2		○											
日本事情Ⅵ	1・2・3・4後			2		○											
日本事情Ⅶ	1・2・3・4前			2		○											
日本事情Ⅷ	1・2・3・4後			2		○											
小計(12科目)		—	0	20	0		—		0	0	0	0	0	0	0	—	
計(139科目)		—	10	250	0		—		3	5	0	1	0	0	0	—	
学部 共通科目	基礎植物学	1前		2		○											
	基礎動物学	1前		2		○			7	2		2					
	基礎化学	1前		2		○											
	基礎数学	1前		2		○											
	基礎物理学	1後		2		○			1								
	基礎統計学	1後		2		○											
	基礎生態学	1後	2			○				1							
	基礎微生物学	1後		2		○			2	4							
	基礎遺伝学	1前	2			○			2	2							
	基礎環境資源経済学	1後		2		○											
小計(10科目)		—	4	16	0		—	9	8	0	2	0	0	0	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門基盤科目	畜産草地科学概論	2後		2		○			1	1							
	生物化学Ⅱ	2前		2		○			1								
	家畜栄養学	2前		2		○											
	動物育種資源学	2前		2		○											
	家畜飼養環境管理学	2後		2		○											
	生物統計学	2後		2		○											
	環境草地学	2前		2		○											
	飼料作物学	2後		2		○											
	畜産草地科学序説	2前		2		○											
	野生動物医学	2前	2			○			2	2						兼1 集中	
	小計(10科目)	—	2	18	0	—	—	—	4	3	0	0	0	0	0	兼1	—
獣医解剖学	解剖学Ⅰ	1前	2			○			1	1							
	解剖学Ⅱ	1前	2			○			1								
	組織学	1前	2			○			1								
	解剖学実習	1後	2						1	1		1					
	発生学	2前	2			○			1	1							
	組織学実習	2後	1						1	1		1					
	獣医解剖学講座専修実験	4通		2					1	1		1					
	小計(7科目)	—	11	2	0	—	—	—	1	1	0	1	0	0	0	—	
	獣医生理学	動物生理学Ⅰ	1前	2			○			1	1						
		動物生理学Ⅱ	1前	2			○			1	1						
		動物生理学Ⅲ	1後	2			○			1	1						
生理化学Ⅰ		1後	2			○			1	1							
獣医遺伝子学		2後	2			○			1							兼1	
生理学実験実習		3前	1						1	1						兼1	
生理化学実験実習		3前	1						1	1						兼1	
獣医生理学講座専修実験		4通		2					1	1							
小計(8科目)		—	12	2	0	—	—	—	1	1	0	0	0	0	0	兼1	—
獣医薬理学	薬理学Ⅰ	2後	2			○			1	1							
	薬理学Ⅱ	3前	2			○			1	1							
	薬理学実験	3前	1						1	1							
	毒性学	3後	2			○			1	1							
	毒性学実験	3後	1						1	1							
	獣医薬理学講座専修実験	4通		2					1	1							
小計(6科目)	—	8	2	0	—	—	—	1	1	0	0	0	0	0	—		
獣医病理学	動物病理学総論Ⅰ	2前	2			○			1	1							
	動物病理学総論Ⅱ	2後	2			○			1	1							
	動物病理学各論Ⅰ	3前	2			○			1	1							
	動物病理学各論Ⅱ	3後	2			○			1	1							
	動物病理学実習	3後~4前	2			○			1	1							
	獣医病理学講座専修実験	4通		2					1	1							
	小計(6科目)	—	10	2	0	—	—	—	1	1	0	0	0	0	0	—	
獣医微生物学	微生物学総論Ⅰ	2前	2			○			1	1							
	微生物学総論Ⅱ	2後	2			○			1	1							
	微生物学各論Ⅰ	3後	2			○			1	1							
	微生物学各論Ⅱ	3前	2			○			1	1							
	微生物学実習	3後	2						1	1							
	獣医微生物学講座専修実験	4通		2					1	1							
小計(6科目)	—	10	2	0	—	—	—	1	1	0	0	0	0	0	—		
獣医内科学	獣医内科学Ⅰ	3後	2			○			1								
	獣医内科学Ⅱ	4前	2			○			1								
	獣医内科学Ⅲ	4後	2			○			2	1							
	獣医内科学実習Ⅰ	4後	1						1			1					
	獣医内科学実習Ⅱ	5前	1						1			1					
	獣医内科学講座専修実験	4通		2					1			1					
小計(6科目)	—	8	2	0	—	—	—	2	1	0	1	0	0	0	—		
獣医寄生虫病学	寄生虫学Ⅰ	2前	2			○			1	1							
	寄生虫学Ⅱ	2後	2			○			1	1							
	寄生虫学実習	2後	1						1	1							
	獣医寄生虫病学講座専修実験	4通		2					1	1							
	小計(4科目)	—	5	2	0	—	—	—	1	1	0	0	0	0	0	—	



科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
獣医学科	獣医外科学	獣医外科学総論	4前	2			○			1	1					
		獣医外科学各論Ⅰ	4後	2			○			1	1					
		獣医外科学実習Ⅰ	4後	1					○	1	1		1			
		獣医外科学各論Ⅱ	5前	2			○			1	1					
		獣医外科学実習Ⅱ	5前	1					○	1	1		1			
		獣医外科学講座専修実験	4通		2				○	1	1		1			
		小計(6科目)	—	8	2	0		—		1	1	0	1	0	0	—
	獣医臨床繁殖学	獣医臨床繁殖学Ⅰ	5前	2			○			1						
		獣医臨床繁殖学Ⅱ	5後	2			○			1						
		獣医臨床繁殖学実習	5後	1					○	1			1			
		獣医臨床繁殖学講座専修実験	4通		2				○	1			1			
		小計(4科目)	—	5	2	0		—		1	0	0	1	0	0	—
	獣医臨床放射線学	獣医放射線学Ⅰ	5前	2			○			1	1					
		獣医放射線学Ⅱ	5後	2			○			1	1					
		獣医放射線学実習	6前	1					○	1	1					
		獣医臨床放射線学講座専修実験	4通		2				○	1	1					
		小計(4科目)	—	5	2	0		—		1	1	0	0	0	0	—
	獣医衛生学	獣医衛生学	3後	2			○			1	1					
		獣医衛生学実習	4前	1					○	1	1					
		家禽疾病学	4後	2			○			1	1					
		獣医衛生学講座専修実験	4通		2				○	1	1					
		小計(4科目)	—	5	2	0		—		1	1	0	0	0	0	—
	獣医公衆衛生学	獣医公衆衛生学Ⅰ	4前	2			○			1	1					
		獣医公衆衛生学Ⅱ	4後	2			○			1	1					
		獣医公衆衛生学実習	5前	1					○	1	1					
		獣医公衆衛生学講座専修実験	4通		2				○	1	1					
小計(4科目)		—	5	2	0		—		1	1	0	0	0	0	—	
獣医学科	専門科目	獣医学概論・獣医学史	1後	2			○				1					
		フィールド獣医学	1後	2			○			4	4					
		欧文獣医学演習	4通	2				○		1						
		獣医臨床感染症学	4後	2			○			1	1					
		動物感染症学実習	4後	1					○	4	4					
		獣医畜産法規	4後	2			○			1	1					
		実験動物学	5前	2			○			3	4				兼1	
		人獣共通感染症学	5前	2			○			4	4					
		人獣共通感染症学実習	5前	1					○	4	4					
		産業動物臨床実習	5前	1					○	1					兼1	
		獣医インターンシップ	6通	1					○							
		獣医臨床特別講義	6前	2			○			1					兼1	
		病院臨床実習	5後・6前	2			○			6	5		3		隔年開講	
		卒業論文	5・6通	8				○		13	12		3			
		放牧生態学	3前	2			○			1	1					
		動物福祉学	3後	2			○									
		動物育種学	3前		2		○									
		動物行動学	3前	2			○									
		畜産学実習	3前	1					○							
		動物生殖制御学	3前		2		○									
		魚類学	3前		2		○									
		技術者倫理	3後		1		○								兼1	
		魚病学	3後		2		○								集中	
		同位元素利用論	4前		2		○			1	1					
		微生物機能開発学	4後		2		○									
		遺伝子工学	5後		2		○									
	小計(26科目)	—	39	13	0		—		13	12	0	3	0	兼4	—	
	合計(250科目)	—	147	321	0		—		13	12	0	3	0	兼6	—	

学位又は称号	学士（獣医学）	学位又は学科の分野	獣医学関係
設置の趣旨・必要性			
<p><b>I. 設置の趣旨・必要性</b></p> <p><b>設置の趣旨：</b></p> <p>国立大学法人宮崎大学農学部は、「柔軟に幅広く農学専門分野を身につけさせ、主体性と創造性に富み、個性豊かで、国際的にも通用する人材（いわゆるゼネラリスト）」の育成を目指して教育を行ってきた。しかし、平成12年の改組以来、我が国の農業、あるいは大学の農学教育が担う役割は急激に変化しており、これまでより農業の専門性の高い人材育成を要望している。そのため、現在の農学部の学科組織では、本学理念の「変動する時代及び社会の多様な要請に応え得る人材の育成」や農学部の教育理念である「地域に根ざし世界の食料・環境問題の克服を目指す」の遂行が難しい状況になっている。そこで、本学農学部は、現5学科制を廃止し、近年の様々な課題（必要性）への対応を考慮した新たな6学科を設置することで、「広い視野で物事を考える総合的判断力や問題解決能力を涵養しつつ、社会の要請に応えるための高い専門性と技術を有した人材」を育成し、国内外の農業・食料・環境及び福祉等の問題解決に貢献する。専門性の高い技術者の養成を行うためには各学科単独での専門教育のみでは不可能であり、農学部全体で取り組まなければならない。結果的には、新6学科の中で4学科は名称変更を伴う改組とし、応用生物科学科と獣医学科の2学科については、学科の趣旨・目的・学生の入り口と出口などに即した名称になっており、既に技術者養成を指向していることや、地域の企業等や受験生・卒業生から認知されていることから、名称を変更することは、むしろ就職活動や学生募集にデメリットであると判断し、名称を変更しないこととした。しかし、応用生物科学科では今回の改組により、組織的には2つの講座「生物機能科学講座」と「食品機能化学講座」を統合し、従来の講座制を廃止した。また、カリキュラムでは、近年のバイオサイエンス分野や、食品の機能や安全性についての教育・研究ニーズに応えるために、新たに「バイオサイエンス」などの新科目を設けると同時に、必修科目の単位を47単位から65単位に増やすなど、より専門性を強化して、技術者の養成にさらに力を入れることとした。すなわち、講座制を廃止し、他学科との連携教育システムを構築し、必修科目を大幅に整備するなど、従前に比較して大きな改善を行った。また、獣医学科では、産業動物獣医師や食肉衛生関連獣医師養成のニーズに応えるために、畜産草地科学科等と連携して産業動物の教育に力を入れることとし、カリキュラムの大幅な改善を行った。さらに、今後予定している学科への教員配置なども今回の改組に沿ったものになるため、応用生物科学科と獣医学科も新たな学科としてスタートする必要がある。</p> <p><b>設置の必要性：</b></p> <p><b>1. 社会的ニーズの変化に対する対応</b></p> <p>我が国の食料自給率は年々減少し、現在40%弱で先進12カ国中最下位にある。農業後継者や農業技術者を養成し、食料生産を増加させ、食料自給率を向上させる事は極めて重要な課題である。また、近年、国民の食品や食料の安全に対する意識は高く、食品加工・流通・バイオテクノロジーなどに関連した農学教育・研究の重要性が増している。人のメタボリックシンドロームや高齢化も食品と健康に関する教育・研究の重要性を増加させている。さらに、地球の温暖化は益々深刻化しており、環境や農・水産物資源への対応が農学教育・研究に求められている。鳥や豚のインフルエンザやBSEを含めた人獣共通感染症に関する教育・研究の要請も年々強くなっている。以上のような社会的ニーズの変化に対応できる新たな教育組織が必要である。</p> <p><b>2. 施政に対する対応</b></p> <p>中央教育審議会（2005年4月）では、高等教育の将来像として「各大学が期待される役割・機能を十分に踏まえた教育・研究を展開すること、高度の専門職業人養成、幅広い職業人養成、社会貢献機能などにおいて、各大学が個性・特色を出すこと」を挙げている。しかし、現在の農学部はゼネラリストの養成を志向しており、専門職業人の養成に対応した学科編成になっていない。また、中央教育審議会大学教育部会（2006年12月：第9回）で論議された学士課程教育の現状と課題においては、「学士教育のアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー及びディプロマポリシーの明確化」が重要事項として挙げられているが、現在の幾つかの学科では教育や就職分野が異なる複数講座で構成されているため、それらへの対応が難しい状況にある。</p> <p><b>3. 地域社会に対する対応</b></p> <p>宮崎県は農業が主要産業であり、家畜をはじめ多くの農産物の生産高が全国の上位にある。これら県内農業に関係する産・官が農学部に期待する所は大きく、共同研究の依頼やアドバイザーの依頼など益々増加傾向にある。しかし現在、それらの依頼や要望に応えられる学科編成になっていない。</p> <p><b>4. 環境問題の変化に対する対応</b></p> <p>平成12年の改組当時の環境対策の焦点は、ダイオキシン特別措置法の実施、自動車排気ガスの規制実施、オゾン層保護のためのフロンガスの回収などであった。また、これに加えて、環境ホルモン、化学物質、廃棄ゴミなどの諸問題や河川、海洋の汚染などが注目されていた。しかし、近年、環境への取り組み方が、それぞれ地域における生態系の健全性の維持・回復に向けて、大きく変遷したと言える。特に、地球温暖化、リサイクル、海洋汚染防止、森林・緑地・河川・湖沼の保全などが重要なキーワードとして挙げられており、これらの諸課題に対処するためには、新たな組織を再構築し、それぞれの学科が、それぞれに直面する環境問題に対応しなければならない。</p> <p><b>5. 現在の5学科制での諸課題への対応</b></p> <p>現在の5学科ではゼネラリスト養成を目指した教育の枠組みで編成されていたため、複数の異分野の講座が一つの学科に混在しており（例えば環境と言うキーワードで、水産科学講座、森林科学講座、草地環境科学講座が一緒になって一つの生物環境学科を構成している）、学生は入学後、2年次の後期にそれぞれのカース（講座）に振り分けられていた。この状況では学科のアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー及びディプロマポリシーの明確化ができなく入り口と出口が不透明であった。また、そのような学科の名称（地域農業システム学科や生物環境科学科など）からは就職先や教育内容を推測する事が難しく受験生や社会に対して不利益を生じることが外部から指摘された。さらに、異分野講座の複合からなる学科編成では専門的教育内容の充実が図れず、専門性の高い技術者を輩出できない状況にある。これらの諸課題へ対応する必要は大きい。</p> <p><b>○獣医学科設置の必要性</b></p> <p>農学教育の中で、本学獣医学科は、全国1位の家畜（和牛、豚、鶏）の生産高を誇る南九州に立脚しており、近年、産業動物獣医師や食肉衛生関連獣医師養成等に関する地域からの要望や社会的ニーズが極めて高くなっている。さらに、産業動物獣医師の不足は宮崎県のみならず全国的にも深刻な問題になっている。産業動物獣医師の業務は家畜診療にあるが、社会的には診療の知識に加えて、家畜の育種、改良、衛生、経営など畜産関連知識を有する産業動物獣医師養成への要望が強い。また近年、食の安全に関する国民の関心は高く、産業動物の感染症（人獣共通感染症を含む）の発生は、国民のみならず産業動物業界にも多大なダメージを与える。そのため、特に産業動物の感染症や食肉衛生、公衆衛生関係の高度な知識を有した人材養成が求められている。これらの社会的ニーズに応える教育・研究組織として、他学科と連携した教育システムを有する新たな獣医学科が必要である。獣医学科という名称は、社会的に受け入れられているため変更はしないが、上記の社会的ニーズに応えるために、これまでに無かった専門基盤科目に「畜産草地科学概論」「家畜栄養学」「動物育種資源学」「家畜飼養環境管理学」「飼料作物学」「畜産草地科学序説」など畜産に関する科目7科目を設け、畜産の専門知識を有した産業動物獣医師養成に力を入れる。一方で、「獣医微生物学」「獣医公衆衛生学」「獣医衛生学」「獣医伝染病学」などの感染症関連科目に加えて、さらに、「動物感染症学」「動物感染症学実習」「獣医臨床感染症学」「人獣共通感染症学」「人獣共通感染症学実習」などを必修科目におき、食の安全を保証するための食肉衛生・食品衛生、ヒトと動物の健康保持のための人獣共通感染症・公衆衛生などの教育に力を入れる。もちろん、コンパニオン・アニマルの診療に関する教育・研究、人体用医薬や動物薬の開発と安全性確保の基礎となる教育・研究、動物愛護や福祉に関する教育・研究、魚病に関する教育・研究、その他、様々な獣医の職種に必要な教育・研究も組織的、体系的に行う組織としても獣医学科は必要である。</p>			

## II. 教育課程編成の考え方及び特色

獣医学科のアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー及びディプロマポリシーを明確に特徴付けることで、受験生や社会に対しての学科の教育内容の透明性が増す。また、学生の希望や社会の情勢やニーズを十分に考慮しながら、他機関との連携なども模索することで専門性の充実と多様化を計り、進路指導の改善ができる。また、カリキュラムポリシーは以下の通りである。

動物の体の構造や機能に関する教育、病気の診断や予防に関する教育、家畜やコンパニオン・アニマルの診療に必要な教育、食肉衛生・食品衛生・人獣共通感染症・魚病対応あるいは公衆衛生に関する教育、人体用医薬や動物薬の開発と安全性確保の基礎となる教育、動物愛護や福祉に関する教育、その他、様々な獣医の職種に必要な教育を行う。カリキュラムの構成として低学年次に、大学共通教育科目や学部共通科目を通して専門導入に必要な教養を身につける。

これらの中でも特に最近重要となっている幾つかの科目については体系的なカリキュラムを構築している。例えば、遺伝・遺伝子の学問領域に関しては、低学年の共通科目の「遺伝子操作入門」(選択)及び学部共通科目の「基礎遺伝学」(必修)で遺伝や遺伝子関係の初歩的な基礎を学び、2年次の専門科目の「獣医遺伝子学」(必修)で遺伝子の高度な基礎(遺伝子操作を含む)を学ぶ。また、応用に関するカリキュラムとして、3年次から5年次にかけて、「遺伝子工学」(必修)、「微生物学総論」(必修)及び「微生物学実習」(必修)で遺伝子操作や遺伝子工学を修得する。臨床に関わる遺伝子診断・遺伝子治療については、「遺伝子工学」(必修)、「毒性学」(必修)及び「人獣共通感染症学実習」(必修)で紹介する。(なお参考に、遺伝子関係履修モデルを下記に添付した)。

また、近年、地球の温暖化や環境破壊などにより、様々な生態系が影響を受けており、野生動物などを取り巻く環境は厳しい状況になっている。生物多様性の保全と野生動物医学は、獣医学でも取り組まなければならない重要な分野であることから、1年次で、大学共通科目の「環境を考える」(必修)及び学部共通科目の「基礎生態学」(必修)を教え、動物の生態が環境変化などどのように変化しているかを理解させる。さらに、2年次の専門基盤科目で「野生動物医学」(必修)を、さらに、3年次の専門科目の「放牧生態学」(必修)及び「動物行動学」(必修)を修得させ、野生動物の生理機能・行動・病気の診断および管理方法などについて教授し、総合的に、生物の多様性の保全や野生動物の保護管理の必要性を理解させる。

また、近年ますます重要となっている人獣共通感染症教育においても、体系的なカリキュラムを組んでいる。2、3年次において、なお、本学獣医学科の教育課程編成は、これまで充実の方向で学部全体あるいは大学全体で取り組んできた。今後も引き続き、学

## 農学部獣医学科遺伝子関係科目履修モデル

### 【遺伝子関係の教育目標】

○遺伝子の基礎から応用に至る知識を修得し、獣医学領域の様々な分野における遺伝子関係業務（繁殖、感染症・病理診断、遺伝子治療、家畜の改良、分子生物学的研究、遺伝子組み換え創薬など）を遂行あるいは発展できる人材を育成する。

【授与する学位】 学士（獣医学）



### 【修了要件】

本学科に6年以上在学し、187単位を修得し、卒業審査に合格したもの。

### 【履修方法】

- ・大学共通科目は、必修科目10単位、大学基礎科目の「初修外国語」の選択科目から4単位、「保健体育科目」の選択科目から2単位、「主題教養科目」の選択科目から14単位、「選択教養科目」から8単位 計38単位を取得する。
- ・「学部共通科目」の必修科目4単位を取得する。
- ・「専門基盤科目」の必修科目2単位を取得する。
- ・「専門科目」の必修科目131単位を取得する。
- ・「専門基盤科目」の選択科目から8単位以上取得する。
- ・「専門科目」の選択科目から2単位以上取得する。
- ・「専門科目」の「各講座専修実験」から2単位取得する。



科目群	大学共通科目 (必修10単位、 選択28単位)	学部共通科目 (必修4単位)	専門基盤科目 (必修2単位、 選択8単位)	専門科目 (必修131単位、選択2単位、 各講座専修実験2単位)
6年次				
5年次				<ul style="list-style-type: none"> <li>● 遺伝子工学(2単位・必修)</li> <li>● 人獣共通感染症学実習(1単位・必修)</li> </ul>
4年次				
3年次				<ul style="list-style-type: none"> <li>● 毒性学実験(1単位・必修)</li> <li>● 微生物学実習(2単位・必修)</li> <li>● 生理化学実験実習(1単位・必修)</li> </ul>
2年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 遺伝子操作入門(2単位・選択)</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>● 微生物学総論Ⅱ(2単位・必修)</li> <li>● 獣医遺伝子学(2単位・必修)</li> <li>● 微生物学総論Ⅰ(2単位・必修)</li> </ul>
1年次		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 基礎遺伝学(2単位・必修)</li> </ul>		

**遺伝子学に関する講義の補足説明**

- ・**基礎遺伝学**: 遺伝子関連の専門科目を履修する上で必要な基礎を学ぶ。高校で履修したDNA、RNA、タンパク質、生殖、遺伝と変異に関する事項を復習するとともに、それらの技術が応用されている遺伝子診断、遺伝子治療、バイオテクノロジーなどの基礎についても学習する。
- ・**遺伝子操作入門**: 遺伝子及び生体において遺伝子が機能するメカニズムの基本を習得し、さらに各種の分野で実際に行なわれている遺伝子関連研究や遺伝子関連技術を理解する。具体的には、核酸・遺伝子の基礎知識（遺伝子の転写と制御、変異、基本的な解析技術）、遺伝子関連研究の現状（DNAマイクロアレイによる遺伝子の網羅的解析、遺伝子操作実験におけるバイオハザード対策と拡散防止）などについて学習する。
- ・**微生物学総論Ⅰ**では、ウイルス学を学習する中で、ウイルスの変異と遺伝（変異体、遺伝子操作、リバースジェネティックス）について学習する。
- ・**微生物学総論Ⅱ**では、免疫学、細菌学を学習する中で、細菌の遺伝と変異（細菌の染色体、プラスミド、バクテリオファージ、遺伝子の伝達、変異、遺伝子の発現調節、病原細菌における遺伝子工学）について学習する。
- ・**獣医遺伝子学**では、遺伝子組換え食品、環境ホルモンへの影響、遺伝子治療などが大きな焦点となるこれからの時代に幅広く対応するため、生体の遺伝情報を担う核酸の特性を知り、さらに遺伝子の構成、複製、発現の制御機構等を理解する。また、組換えDNA技術の基本原則についても学ぶ。具体的には、ヌクレオチド、プリンおよびピリミジンヌクレオチドの代謝、遺伝子の構成・複製・修復、RNAの合成・プロセシング・修飾、タンパク質生合成と遺伝暗号、遺伝子発現の制御について学習する。
- ・**遺伝子工学**では、遺伝子操作についての基本的な事柄について修得するため、遺伝子の塩基配列の決定法、各種生物による発現法、ゲノム生物学についてバイオ上級試験に合格できる知識を身につける。具体的には、ベクター、遺伝子ライブラリーの作成、遺伝子のクローニング法、PCR、遺伝子のシーケンス法、遺伝子の導入とその発現、遺伝子実験施設（P1、P2、P3）、インターネットを利用した遺伝子の解析、ゲノムプロジェクトについて学習する。
- ・**生理化学実験実習**では基礎として、DNAの抽出およびPCRやDNA電気泳動についての実習を行う。
- ・**毒性学実験**では、遺伝子毒性学実験を行うことを通して、制限断片長多型検出法などによる動物の遺伝病を診断する技術を学ぶ。
- ・**微生物学実習**では 遺伝子操作の基礎として、プラスミドの大腸菌への形質転換（コンピーテント細胞、形質転換体のスクリーニング、遺伝子増幅検出法（PCR）、プラスミドDNAの抽出法（アルカリ法）、制限酵素（エンドヌクレアーゼ、電気泳動）、塩基配列決定法（ダイデオキシ法、シークエンサー）などの技術を習得する。
- ・**人獣共通 感染症学実習**では未知の微生物を同定するために16S rRNA遺伝子のシーケンスを行い、情報処理センターにおいてシーケンスデータを基にホモロジー検索などを行う。

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
「宮崎大学共通教育科目」 必修科目 10 単位 「大学教育基礎科目」の<初修外国語>の選択科目から 4 単位 <保健体育科目>の選択科目から 2 単位 「主題教養科目」の選択科目から 1 4 単位 「選択教養科目」の選択科目から 8 単位  「学部共通科目」 必修科目 4 単位  「獣医学科」 「専門基盤科目」の必修科目 2 単位 「専門科目」の必修科目 1 3 1 単位 「専門基盤科目」の選択科目から 8 単位以上 「専門科目」の選択科目から 2 単位以上 「専門科目」の「各講座専修実験」から 2 単位  従って卒業要件単位数は、 「宮崎大学共通教育科目」 3 8 単位 「学部共通科目」 4 単位 「獣医学科」 1 4 5 単位以上の合計 1 8 7 単位 以上とする。 (履修科目の単位の上限：5 0 単位（年間）)	1 学年の学期区分	2 期
	1 学年の授業期間	1 5 週
	1 時限の授業時間	9 0 分